

パート 6

社会との関係深化と推進機能の強化の状況

(裏白紙)

Q601. 研究者の社会リテラシー（研究と社会との関わりについての認識）を向上する取組が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	分らない	2017年度調査						各年の指数				指数の変化										
		6点尺度回答者数(人)						回答者 合計(人)	指数	第4 分点	中央値	第3四 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最 新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関 を 対 象	大学・公的研究機関グループ	103	79	372	564	413	206	42	1,676	4.5	4.5	6.0	4.5	4.5	-	-	-	-0.04	-	-	-	1
	大学等	88	64	294	468	358	183	38	1,405	4.6	4.6	6.1	4.6	4.6	-	-	-	-0.01	-	-	-	2
	公的研究機関	15	15	78	96	55	23	4	271	4.0	4.1	5.4	4.2	4.0	-	-	-	-0.19	-	-	-	3
	インベーション・俯瞰グループ	86	46	183	188	90	11	2	520	3.4	3.6	4.8	3.4	3.4	-	-	-	0.03	-	-	-	4
	大企業	38	4	62	61	29	2	0	158	3.5	3.7	4.8	3.5	3.5	-	-	-	0.05	-	-	-	5
	中小企業・大学発ベンチャー	29	22	37	44	15	0	1	119	2.9	3.4	4.5	3.1	2.9	-	-	-	-0.12	-	-	-	6
	中小企業	21	8	17	18	8	0	0	51	3.0	3.4	4.6	3.1	3.0	-	-	-	-0.11	-	-	-	7
	大学発ベンチャー	8	14	20	26	7	0	1	68	2.9	3.3	4.4	3.0	2.9	-	-	-	-0.13	-	-	-	8
	橋渡し等	19	20	84	83	46	9	1	243	3.5	3.7	4.9	3.4	3.5	-	-	-	0.09	-	-	-	9
	男性	160	110	504	681	452	199	41	1,987	4.3	4.3	5.7	4.3	4.3	-	-	-	0.00	-	-	-	10
職位	女性	29	15	51	71	51	18	3	209	4.1	4.2	5.6	4.3	4.1	-	-	-	-0.05	-	-	-	11
	社長・役員、学長等クラス	36	30	109	134	59	11	1	344	3.5	3.7	4.8	3.4	3.5	-	-	-	0.08	-	-	-	12
	部長、教授クラス	68	46	221	289	190	68	13	827	4.1	4.2	5.6	4.1	4.1	-	-	-	0.00	-	-	-	13
	主任研究員、准教授クラス	44	25	137	197	159	85	21	624	4.7	4.6	6.1	4.7	4.7	-	-	-	-0.01	-	-	-	14
	研究員、助教クラス	34	22	78	113	91	53	9	366	4.6	4.6	6.1	4.7	4.6	-	-	-	-0.13	-	-	-	15
	その他	7	2	10	19	4	0	0	35	3.4	3.8	4.6	3.0	3.4	-	-	-	0.43	-	-	-	16
	任期あり	56	38	190	241	163	62	16	710	4.2	4.2	5.6	4.2	4.2	-	-	-	0.02	-	-	-	17
	任期なし	133	87	365	511	340	155	28	1,486	4.3	4.3	5.7	4.3	4.3	-	-	-	-0.04	-	-	-	18
	学長・機関長等	2	4	32	48	30	7	0	121	4.1	4.2	5.4	4.1	4.1	-	-	-	-0.05	-	-	-	19
	マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
大学・公的研究機関 を 対 象	現場研究者	93	69	309	473	343	176	38	1,408	4.5	4.5	6.0	4.6	4.5	-	-	-	-0.05	-	-	-	21
	大規模PJの研究責任者	8	6	31	43	40	23	4	147	4.7	4.7	6.3	4.7	4.7	-	-	-	0.08	-	-	-	22
	国立大学等	63	39	211	332	267	134	31	1,014	4.7	4.6	6.1	4.6	4.7	-	-	-	0.03	-	-	-	23
	公立大学	2	7	22	25	14	10	3	81	4.2	2.7	4.1	5.8	4.2	-	-	-	-0.10	-	-	-	24
	私立大学	23	18	61	111	77	39	4	310	4.5	3.3	5.9	4.6	4.5	-	-	-	-0.13	-	-	-	25
	第1グループ	16	10	49	67	69	35	9	239	4.8	4.8	6.3	4.7	4.8	-	-	-	0.13	-	-	-	26
	第2グループ	30	17	59	105	90	50	7	328	4.7	4.7	6.2	4.7	4.7	-	-	-	0.00	-	-	-	27
	第3グループ	17	16	87	132	78	28	9	350	4.2	4.2	5.6	4.4	4.2	-	-	-	-0.13	-	-	-	28
	第4グループ	24	19	90	153	105	60	10	437	4.6	4.5	6.0	4.6	4.6	-	-	-	0.01	-	-	-	29
	理学	18	9	40	59	51	21	5	185	4.5	3.2	4.6	6.0	4.7	-	-	-	-0.12	-	-	-	30
イノベーション を 対 象	工学	25	18	75	118	110	80	15	416	5.0	5.0	6.5	5.0	5.0	-	-	-	-0.01	-	-	-	31
	農学	10	8	34	62	37	18	4	163	4.4	3.3	4.4	5.8	4.4	-	-	-	-0.06	-	-	-	32
	保健	26	21	96	149	88	30	7	391	4.2	4.2	5.5	4.2	4.2	-	-	-	-0.02	-	-	-	33
	あり(過去3年間)	61	40	152	155	78	11	2	438	3.4	3.6	4.8	3.4	3.4	-	-	-	0.02	-	-	-	34
	なし	25	6	31	33	12	0	0	82	3.2	3.5	4.6	3.2	3.2	-	-	-	0.08	-	-	-	35
	大学・公的研究機関等の 知財活用(企業等)	37	21	86	79	35	4	0	225	3.2	3.4	4.6	3.2	3.2	-	-	-	0.09	-	-	-	36
	なし(分からない)	43	11	46	47	20	2	1	127	3.4	3.6	4.7	3.4	3.4	-	-	-	-0.07	-	-	-	37
	全回答者(属性無回答を含む)	189	125	555	752	503	217	44	2,196	4.2	4.3	5.7	4.3	4.2	-	-	-	-0.02	-	-	-	38

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q601. (意見の変更理由)研究者の社会リテラシー(研究と社会との関わりについての認識)を向上する取組が十分に行われていると思いますか。

	2016	2017	差	
1	1	3	2	原発事故以後、少しずつ増えているように思う(大学,第1G,研究員・助教クラス,男性)
2	2	4	2	FD活動も大分板についてきた。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
3	1	3	2	講演会などで社会リテラシーに関する情報発信が行われている(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
4	2	4	2	私大のため、前職の国立よりも、地域への貢献などを意識したイベントが多いと感じる(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
5	1	3	2	学外への働きかけなど、いろいろ行われている部分もあります。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
6	3	4	1	e-learningの回数は増えてきている(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
7	2	3	1	改善されていると感じます。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
8	5	6	1	やりすぎです。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
9	2	3	1	本校では論文以外の対外的な発表として広報などの手段もあることを講演していただきました。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
10	3	4	1	研修会を行うようになった。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
11	2	3	1	委員会が立ち上がり、講演会等の活動が始まっている。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
12	3	4	1	向上する試みが行われていることを、最近感じたため(大学,部長・教授等クラス,男性)
13	3	4	1	各種研修が充実してきた。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
14	2	3	1	IoTやAI等、社会との接点が重要な研究課題の影響により(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
15	1	2	1	アウトリーチは以前よりも盛んになっていると感じます。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
16	2	3	1	アカデミアの広報・啓蒙活動を概観し、評価(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
17	3	4	1	一部大学院等ではリサーチアドミニストレータの拡充や、ヒトとの関りで理・工学分野でも心理や社会科学との連携をはじめられていると思うので。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
18	3	4	1	以前よりも取り組みが進んでいるように伺っています。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
19	1	2	1	自然科学系の大学改革影響が人文系にも及びつつある(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
20	2	3	1	少しずつですが良くなってきている印象です。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
21	3	3	0	該当する取組は増加の傾向にある。研究者に異分野融合の意識は広がりを見せている。社会への浸透ではまだ十分とは言えない。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
22	5	5	0	リテラシー講座が行なわれているため。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
23	3	3	0	社会学者の役目が重要になっているとの認識は生まれてきた。(大学,部長・教授等クラス,男性)
24	2	2	0	専門職研究者が多いため、社会とのつながりが薄い。(大学,部長・教授等クラス,男性)
25	4	4	0	ただし、その効果には疑問が残る。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
26	1	1	0	自分の興味に、社会のニーズがあるように見える作文が多いように感じます(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
27	6	6	0	個人による宣伝が過大となっている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
28	1	1	0	まず機会が無いので無理。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
29	3	3	0	理系と文系の交流が必要ですが、文系(大学,シンクタンク,NEDO,JSTなど)では、社会リテラシーを考えている部署がそもそもあるのか疑問です。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
30	2	1	-1	大学教員は社会経験が不十分(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
31	4	3	-1	社会的な需要に対して個人の裁量と責任に負うところが大きくなってきたように思われます。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
32	4	3	-1	生命科学での先端研究の理解は専門知識を要するので社会リテラシーにはなりにくい。むしろ、成果を好みに解釈して社会に発信しているケースが目立つ。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
33	2	1	-1	人文社会と自然科学の連携はさらに減っています。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
34	3	2	-1	ほとんど宗教を心に持たない日本人にとって難しい問題である。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
35	4	3	-1	それなりの取り組みはされているとおもう。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
36	3	2	-1	人文・社会科学と自然科学の交流の場が限られているため。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
37	3	2	-1	産学共同研究のより一層の活性化が必要と考える。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
38	3	2	-1	研究者の価値観(インパクトファクター至上主義)と一般社会の価値観(実利のある研究かどうか)の乖離が以前より進んでいるように感じる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
39	4	3	-1	予算不足で社会リテラシーが損なわれることがないか、多面的な検証が必要である。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
40	3	2	-1	取組が行われていると感じた場面はありません。インパクトのある成果やキャラクターを有する研究者(山中伸弥氏、益川敏英氏等)の発信力に委ねられているのみではないでしょうか。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
41	4	3	-1	研究者個人の行動に頼っている。(公的研究機関,その他,男性)

42	5	4	-1	人文・社会科学及び自然科学の連携の重要性に対する意識は高まっているが,具体的な取り組みはまだ不十分である。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
43	2	1	-1	取り組みが見えない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
44	2	1	-1	人文・社会科学系の分野と自然科学が互いに融合した形を,より世の中に伝えたほうがよい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
45	4	3	-1	研究が研究に留まっており,社会実装への意識がまだ足りない。(民間企業等,その他,男性)
46	3	1	-2	新規入会した学会で,社会リテラシーのない研究者を多く見かけた。分野によると思う。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
47	4	2	-2	やはり活動が十分プロパゲートされていないのではないか?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
48	6	3	-3	特にそういった取り組みが行われているという認識はない。前回なぜ6と思ったのか思いだせない。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
49	6	3	-3	関連するコミュニティ外に対する研究成果のインパクトを評価する仕組みが弱い。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
50	6	1	-5	大学が実施しても,教員が参加しない。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)

Q602. 科学技術の社会実装に際しての倫理的・法制的・社会的課題を解決するための、人文・社会科学及び自然科学の連携による取組が十分に行われていると思いますか。

	分らない、	2017年度調査						各年の指数				指数の変化											
		6点尺度回答者数(人)						回答者 合計(人)	指数	第4 分点	中央値	第3 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最 新年	
		1	2	3	4	5	6																
回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	191	177	489	505	275	119	23	1,588	3.7	2.4	3.8	5.1	3.7	3.7	-	-	-0.07	-	-	-	-	1
	大学等	159	143	396	418	248	106	23	1,334	3.8	2.5	3.8	5.3	3.8	3.8	-	-	-0.06	-	-	-	-	2
	公的研究機関	32	34	93	87	27	13	0	254	3.1	2.2	3.3	4.5	3.3	3.1	-	-	-0.13	-	-	-	-	3
	インベーション・ベンチャーグループ	99	58	217	173	50	7	2	507	3.0	2.2	3.2	4.3	2.9	3.0	-	-	0.03	-	-	-	-	4
	大企業	39	7	67	63	17	3	0	157	3.3	2.5	3.5	4.5	3.1	3.3	-	-	0.14	-	-	-	-	5
	中小企業・大学発ベンチャー	35	17	51	33	12	0	0	113	2.7	2.0	3.0	4.2	2.9	2.7	-	-	-0.22	-	-	-	-	6
	中小企業	23	8	21	17	3	0	0	49	2.6	2.0	3.0	4.1	3.1	2.6	-	-	-0.45	-	-	-	-	7
	大学発ベンチャー	12	9	30	16	9	0	0	64	2.8	2.1	2.9	4.3	2.8	2.8	-	-	-0.04	-	-	-	-	8
	橋渡し等	25	34	99	77	21	4	2	237	2.9	2.1	3.1	4.3	2.8	2.9	-	-	0.08	-	-	-	-	9
	男性	247	216	635	615	296	115	23	1,900	3.5	2.3	3.6	4.9	3.5	3.5	-	-	-0.04	-	-	-	-	10
	女性	43	19	71	63	29	11	2	195	3.5	2.4	3.5	4.8	3.5	3.5	-	-	-0.03	-	-	-	-	11
	社長・役員、学長等クラス	41	34	135	126	40	4	0	339	3.1	2.3	3.3	4.5	3.1	3.1	-	-	-0.01	-	-	-	-	12
	部長、教授クラス	89	95	282	252	122	45	10	806	3.4	2.3	3.5	4.8	3.5	3.4	-	-	-0.04	-	-	-	-	13
	主任研究員、准教授クラス	89	61	169	187	103	47	12	579	3.8	2.5	3.9	5.3	3.8	3.8	-	-	-0.01	-	-	-	-	14
	研究員、助教クラス	62	40	105	101	59	30	3	338	3.7	2.4	3.7	5.2	3.8	3.7	-	-	-0.09	-	-	-	-	15
雇用形態	その他	9	5	15	12	1	0	0	33	2.5	2.0	2.9	4.0	2.6	2.5	-	-	-0.05	-	-	-	-	16
	任期あり	82	76	226	231	107	37	7	684	3.5	2.4	3.6	4.9	3.4	3.5	-	-	0.05	-	-	-	-	17
	任期なし	208	159	480	447	218	89	18	1,411	3.5	2.3	3.6	4.9	3.6	3.5	-	-	-0.08	-	-	-	-	18
	業務内容別	3	12	41	46	18	3	0	120	3.3	2.4	3.6	4.7	3.4	3.3	-	-	-0.13	-	-	-	-	19
	学長・機関長等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
	マネジメント実務	178	146	404	414	233	105	21	1,323	3.7	2.4	3.8	5.2	3.8	3.7	-	-	-0.05	-	-	-	-	21
	現場研究者	10	19	44	45	24	11	2	145	3.6	2.3	3.7	5.1	3.8	3.6	-	-	-0.21	-	-	-	-	22
	大規模PJの研究責任者	112	99	284	306	185	74	17	965	3.8	2.5	3.9	5.3	3.8	3.8	-	-	-0.03	-	-	-	-	23
	国立大学等	11	9	21	27	6	7	2	72	3.6	2.4	3.7	4.8	3.5	3.6	-	-	0.10	-	-	-	-	24
	公立大学	36	35	91	85	57	25	4	297	3.7	2.4	3.8	5.3	3.9	3.7	-	-	-0.19	-	-	-	-	25
	私立大学	32	22	64	65	46	21	5	223	4.0	2.5	4.0	5.6	4.0	4.0	-	-	-0.01	-	-	-	-	26
	第1グループ	45	27	89	101	62	26	8	313	4.0	2.6	4.0	5.5	4.0	4.0	-	-	0.01	-	-	-	-	27
	第2グループ	36	44	108	116	41	20	2	331	3.3	2.3	3.5	4.7	3.5	3.3	-	-	-0.17	-	-	-	-	28
	第3グループ	42	43	120	125	88	36	7	419	3.9	2.5	4.0	5.5	3.9	3.9	-	-	-0.05	-	-	-	-	29
	第4グループ	44	18	46	49	29	14	3	159	3.8	2.5	3.9	5.4	3.8	3.8	-	-	-0.03	-	-	-	-	30
大学・公的研究機関Gを対象	理学	42	49	91	117	81	49	12	399	4.1	2.6	4.2	5.9	4.2	4.1	-	-	-0.03	-	-	-	-	31
	工学	16	12	51	52	29	11	2	157	3.8	2.6	3.8	5.2	3.8	3.8	-	-	0.00	-	-	-	-	32
	農学	44	40	135	115	61	19	3	373	3.4	2.3	3.5	4.9	3.5	3.4	-	-	-0.07	-	-	-	-	33
	保健	75	49	177	145	44	7	2	424	3.0	2.2	3.2	4.4	2.9	3.0	-	-	0.07	-	-	-	-	34
	産学官連携活動あり(過去3年間)	24	9	40	28	6	0	0	83	2.7	2.2	3.0	4.1	2.9	2.7	-	-	-0.16	-	-	-	-	35
	なし	40	21	98	74	26	3	0	222	3.0	2.3	3.2	4.4	2.9	3.0	-	-	0.15	-	-	-	-	36
	大学・公的研究機関等の 知財活用(企業等)	49	16	53	38	12	2	0	121	2.9	2.1	3.1	4.3	3.1	2.9	-	-	-0.21	-	-	-	-	37
	なし/分からない	290	235	706	678	325	126	25	2,095	3.5	2.3	3.6	4.9	3.5	3.5	-	-	-0.04	-	-	-	-	38
	全回答者(属性無回答を含む)																						

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q602. (意見の変更理由)科学技術の社会実装に際しての倫理的・法制度的・社会的課題を解決するための、人文・社会科学及び自然科学の連携による取組が十分に行われていると思いますか。

	2016	2017	差	
1	3	6	3	最近生命倫理研究の規定が厳しくなってきました。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	2	5	3	学内FD等の取組みが増えてきたため。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	3	4	1	学際融合を目指すセンターが立ち上がったため。(大学,第1G,農学,研究員・助教クラス,女性)
4	2	3	1	倫理的・法制度的には拡大しているが,社会実装の現状とその成果の発信ではまだ十分とは言えない。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
5	2	3	1	成果はともかく,理系分野と人文社会系分野の融合を目指した取組みが,各所で見られるようになってきた。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
6	1	2	1	異分野交流の機会が増えた印象をもつ。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
7	5	6	1	やりすぎです。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1	ある程度進展した。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
9	2	3	1	新しく人間科学部への期待から(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
10	2	3	1	学会でそれに関連するセッションを見かけました。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
11	3	4	1	研修会を行うようになった。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
12	2	3	1	理系と社系の交流が行われるようになってきた。今後ますます必要。(大学,部長・教授等クラス,男性)
13	2	3	1	手探りだが各研究者が方向性を見出す努力をしている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
14	1	2	1	SIPで取り組んでいる課題がありますが,成果は把握していません。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
15	1	2	1	一部の大学ではあるが,取組みが強化されている(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	1	2	1	防衛基礎研究の公募に対することを例に議論,体制構築が高まったと思う(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
17	2	2	0	より倫理的な面,法的な面が研究の現場でも重要になってきている為,そこを担う専門職として文系学部の役割は大きくなると思われるが,今はこれら部局の縮小に動いており,将来が心配である。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
18	3	3	0	おそらくうまく機能はしていないのではないのか。人文理工間の融合を促進できないものか。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
19	1	1	0	軍事研究に抵抗のない研究者が多い(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
20	2	2	0	そのような観点からの具体的な活動をほとんど見ることがない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
21	2	2	0	取り組み方を見直さないと,科学離れが進みそう。科学技術に興味があるかと聞いて,はいと答える子供がどれだけのものか。いても,オタク扱い。ロボオタとか。これでは,隠れて表にでないし,友達もできず,広がらない。意識を変える必要がある。分かりやすい成功者のサクセスストーリーとか,道徳の時間にでもやるべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
22	3	2	-1	大学自身が不正防止のために,非論理的・非科学的な制度を導入している。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
23	2	1	-1	科学に関する共通認識がない(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
24	4	3	-1	組織としては対応ができているが各分野の連携面は十分とは言えない。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
25	2	1	-1	具体的な話を聞いたことがありません(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
26	2	1	-1	個人情報保護法の改定により,ライフサイエンスにおける対人の研究は困難さが増したように感じる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
27	3	2	-1	形式的な融合促進のみであり,実質的な新たな連携を生み出しているとは思えない(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
28	2	1	-1	日常業務や必須行事が増えた。この項目は大変重要であるが,即効性がないので,よほど強いリーダーシップを発揮しない限り,十分な時間を割くことはできないだろう。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
29	2	1	-1	人文系との連携は至って薄い。(大学,その他,男性)
30	3	2	-1	スピードが遅い(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
31	3	2	-1	人文・社会科学と自然科学の交流の場が限られているため。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
32	3	2	-1	人文・社会科学からのアプローチが不十分(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
33	4	3	-1	反科学的な社会風潮が広がり,科学が間違ったことをするという認識が社会学者に広がっている(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
34	2	1	-1	これも,問われることがないので皆無。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
35	3	2	-1	少なからず見えない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
36	2	1	-1	世の中の要求水準が変化の中で,それをタイムリーに連携できるようになっていないのでは?社会科学側の取組みがよくわからない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
37	4	3	-1	フェールセーフの行き過ぎにより科学技術の実装が遅れていると感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
38	4	2	-2	経済活動における構造改革と同じで,規制増強の法はすぐにできるが,規制緩和の法はできない。国外に比べ,日本国民が科学を育てる意識が低くなっていると思う。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
39	3	1	-2	分野横断に関しては言葉が先行しており実績につながっていないと感じる。分野の間を埋められる人材の育成が国・研究機関双方に必要と感じる。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
40	6	4	-2	哲学分野の人材不足が問題(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

Q603. 科学技術イノベーションと社会との関係について、多様なステークホルダー(研究者、国民、メディア等)が双方向で対話・協働することにより、政策形成や知識創造に結びつけるための取組が十分に行われていると思いますか。

	分らない	2017年度調査						各年の指数				指数の変化											
		6点尺度回答者数(人)						回答者 合計(人)	指数	第1四分 点	中央値	第3四分 点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最 新年	
		1	2	3	4	5	6																
回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	216	171	516	512	252	94	18	1,563	3.5	2.4	3.6	4.9	3.7	3.5	-	-	-0.13	-	-	-	-	1
	大学等	186	138	423	426	225	78	17	1,307	3.6	2.4	3.7	5.0	3.7	3.6	-	-	-0.11	-	-	-	-	2
	公的研究機関	30	33	93	86	27	16	1	256	3.2	2.2	3.4	4.6	3.5	3.2	-	-	-0.21	-	-	-	-	3
	イノベーション俯瞰グループ	69	73	233	155	63	13	0	537	2.9	2.1	3.1	4.4	2.9	2.9	-	-	-0.01	-	-	-	-	4
	大企業	24	15	75	49	27	6	0	172	3.2	2.3	3.2	4.7	3.2	3.2	-	-	0.08	-	-	-	-	5
	中小企業・大学発ベンチャー	28	25	50	32	10	3	0	120	2.6	1.8	2.8	4.1	2.7	2.6	-	-	-0.10	-	-	-	-	6
	中小企業	17	13	21	16	5	0	0	55	2.5	1.7	2.8	4.1	2.7	2.5	-	-	-0.24	-	-	-	-	7
	大学発ベンチャー	11	12	29	16	5	3	0	65	2.7	1.9	2.8	4.1	2.7	2.7	-	-	0.02	-	-	-	-	8
	橋渡し等	17	33	108	74	26	4	0	245	2.9	2.1	3.0	4.3	2.9	2.9	-	-	-0.03	-	-	-	-	9
	男性	236	223	673	608	292	98	17	1,911	3.4	2.3	3.5	4.8	3.5	3.4	-	-	-0.08	-	-	-	-	10
性別	女性	49	21	76	59	23	9	1	189	3.2	2.2	3.3	4.6	3.5	3.2	-	-	-0.29	-	-	-	-	11
	社長・役員、学長等クラス	31	41	144	115	39	10	0	349	3.0	2.2	3.2	4.4	3.1	3.0	-	-	-0.03	-	-	-	-	12
	部長、教授クラス	84	95	296	248	123	44	5	811	3.4	2.3	3.4	4.8	3.4	3.4	-	-	-0.08	-	-	-	-	13
	主任研究員、准教授クラス	95	65	178	192	94	35	9	573	3.6	2.4	3.7	5.0	3.7	3.6	-	-	-0.11	-	-	-	-	14
	研究員、助教クラス	69	39	114	101	56	17	4	331	3.5	2.3	3.5	4.9	3.7	3.5	-	-	-0.20	-	-	-	-	15
	その他	6	4	17	11	3	1	0	36	2.9	2.2	3.0	4.2	2.4	2.9	-	-	0.48	-	-	-	-	16
	任期あり	77	79	252	214	109	32	3	689	3.3	2.3	3.4	4.8	3.4	3.3	-	-	-0.09	-	-	-	-	17
	任期なし	208	165	497	453	206	75	15	1,411	3.4	2.3	3.5	4.8	3.5	3.4	-	-	-0.10	-	-	-	-	18
	学長・機関長等	4	9	47	42	16	5	0	119	3.3	2.4	3.5	4.7	3.5	3.3	-	-	-0.13	-	-	-	-	19
	マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
大学・公的研究機関Gを対象	現場研究者	199	149	428	418	211	79	17	1,302	3.5	2.4	3.6	4.9	3.7	3.5	-	-	-0.13	-	-	-	-	21
	大規模PJの研究責任者	13	13	41	52	25	10	1	142	3.7	2.6	3.9	5.0	3.9	3.7	-	-	-0.13	-	-	-	-	22
	国立大学等	136	95	293	312	167	59	15	941	3.7	2.5	3.8	5.1	3.8	3.7	-	-	-0.10	-	-	-	-	23
	公立大学	7	11	30	20	8	7	0	76	3.2	2.1	3.2	4.7	3.2	3.2	-	-	0.01	-	-	-	-	24
	私立大学	43	32	100	94	50	12	2	290	3.4	2.3	3.6	4.8	3.6	3.4	-	-	-0.21	-	-	-	-	25
	第1グループ	33	19	67	75	38	17	6	222	3.9	2.6	3.9	5.2	3.9	3.9	-	-	-0.08	-	-	-	-	26
	第2グループ	51	24	101	95	60	22	5	307	3.8	2.5	3.8	5.3	3.9	3.8	-	-	-0.12	-	-	-	-	27
	第3グループ	46	47	102	112	43	16	1	321	3.3	2.2	3.5	4.7	3.4	3.3	-	-	-0.18	-	-	-	-	28
	第4グループ	50	43	140	134	72	20	2	411	3.5	2.4	3.6	4.9	3.6	3.5	-	-	-0.09	-	-	-	-	29
	理学	43	21	58	39	28	12	2	160	3.5	2.2	3.4	5.1	3.6	3.5	-	-	-0.13	-	-	-	-	30
イノベーションG	工学	50	44	100	130	81	28	8	391	3.9	2.6	4.0	5.4	3.9	3.9	-	-	-0.03	-	-	-	-	31
	農学	20	17	56	53	19	7	1	153	3.3	2.3	3.4	4.6	3.5	3.3	-	-	-0.18	-	-	-	-	32
	保健	55	40	133	121	50	16	2	362	3.3	2.3	3.4	4.7	3.5	3.3	-	-	-0.20	-	-	-	-	33
	産学官連携活動あり(過去3年間)	46	64	184	134	59	12	0	453	3.0	2.1	3.1	4.5	3.0	3.0	-	-	0.02	-	-	-	-	34
	なし	23	9	49	21	4	1	0	84	2.5	2.1	2.8	3.7	2.7	2.5	-	-	-0.17	-	-	-	-	35
	大学・公的研究機関等の 知財活用(企業等)	25	31	93	71	34	8	0	237	3.1	2.2	3.2	4.6	3.0	3.1	-	-	0.15	-	-	-	-	36
	なし/分からない	38	19	68	33	10	2	0	132	2.6	2.0	2.8	3.9	2.9	2.6	-	-	-0.30	-	-	-	-	37
	全回答者(属性無回答を含む)	285	244	749	667	315	107	18	2,100	3.4	2.3	3.5	4.8	3.5	3.4	-	-	-0.10	-	-	-	-	38

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。
 注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q603. (意見の変更理由)科学技術イノベーションと社会との関係について、多様なステークホルダー(研究者、国民、メディア等)が双方向で対話・協働することにより、政策形成や知識創造に結びつけるための取組が十分に行われていると思いますか。

	2016	2017	差	
1	1	3	2	新聞等で科学技術に係わる市民参加型会議等の報道が増えてきたので、以前に比べると取組が行われていると思われる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
2	2	4	2	組織外者との対話・協働は着実に増加し質も向上している。(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
3	2	3	1	このような取組が真に必要なかどうか、イノベーションに結びつくかどうか？(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
4	1	2	1	取組みが始められている。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
5	2	3	1	研究者による市民講座などが増えています。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
6	2	3	1	利益団体の代表や、一部の偏った考えは、誤った方向付けを生む可能性がある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
7	2	3	1	学会でそれに関連するセッションを見かけました。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
8	3	4	1	以前に比べて、研究者の意識も高まっているように感じる(大学,部長・教授等クラス,女性)
9	2	3	1	メディアとの懇談機会は増加している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
10	2	3	1	周囲でサイエンスコミュニケーションに対する意識が向上している。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
11	2	3	1	公開シンポジウム,成果報告会等は以前に比較して、参加しやすい形式で運用されている。WEB上での情報発信も充実しつつある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
12	2	3	1	進みつつあるが十分とは言えないと感じる。そういった活動や成果の情報公開もあればよいと思う。啓蒙も大切。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
13	3	3	0	こちらのアンケートも部分的には反映されていることが時折感じられる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
14	3	3	0	市民参画は、特定の考えを持った人が参画するのを防ぐ手段を講じるべき。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
15	1	1	0	円卓会議などは行われ始めているが、その会議の内容を生かすための次のプロセスが不明確。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
16	2	2	0	現在,学内で議論を進めており,規程などを整備中である。(大学,社長・学長等クラス,男性)
17	3	3	0	学会など個別の団体が、本テーマに係るシンポジウム開催などは見受けられるが、国策としてまとめるための議論する場がない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
18	2	2	0	それぞれの立場に有利な合意形成を図ろうとする一般的な傾向があるので、議論のかじ取り役の育成も必要。(大学,部長・教授等クラス,男性)
19	3	3	0	早急に取り組むべき課題である。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
20	1	1	0	評価する人がアホな人が多いので、現実しか見れない。可能性も評価しないとダメ。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
21	2	2	0	そうはいうが、中身をみるとただの講演会が圧倒的に多い。例えば、参加型のパネルディスカッションの時間を設けても、パネラーの一方的な高説があるだけ。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
22	1	1	0	対話の機会はないし、メディアの報じる内容は表面的すぎる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
23	3	3	0	地方にいますので、取組が見えない場合が多く、情報発信もされていますが、更なる情報発信の仕方を考えて頂けると地方創生が発展すると思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
24	1	1	0	サイエンスパークやリビングラボのような取組みは、日本ではほとんど見られない。市民中心の科学イノベーションは、日本にはないのでは？(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
25	2	2	0	十分に行われていないと思います。NEDOやJSTの役割のような気がします。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
26	2	2	0	参加する市民が本来イノベーションによる利益,影響を被る方とズレがあるのではないかと。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
27	1	1	0	メディアはあまり,科学技術イノベーションと社会との関係について,取り上げていないのではないかとと思われる。取り上げてもらわないと,なかなか国民には伝わりにくい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
28	3	2	-1	こうした取組みにもしっかりとサイエンスが存在し,MITなど海外では包括的に取り組まれているが,日本には根付いていない。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
29	2	1	-1	産学官と社会との関係では,産官と官学との間で意識の相異がある。特にイノベーションでは,産官と官学で大きな隔たりを感じる。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
30	2	1	-1	行っていますか？(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
31	3	2	-1	がんばってはいると思うが・・・なかなか目に見える形になっていない。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
32	2	1	-1	努力が成果に結びついていないと感じます。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
33	2	1	-1	研究者によって温度差が大きいです。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
34	4	3	-1	多様なステークホルダーによる会議は行われていると思うが,その内容が国民に充分知らされているとはいえない。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
35	2	1	-1	具体的な話を聞いたことがありません(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
36	3	2	-1	最近,とみに首相の周囲からの声ばかりが目立っている(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

37	2	1	-1	国民には広く説明を継続する必要があるが、市民参加型などのクローズドで少人数の取り組みは効率が悪い。TV特集などを多く作成するなどの補助体制を構築してはどうか。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
38	2	1	-1	マスコミのサイエンスリテラシーが低い。(大学,部長・教授等クラス,男性)
39	2	1	-1	文理融合との掛け声はあるが、実施されているところは少ない。教員が雑用をしなければならず、時間的余裕がない。(大学,その他,男性)
40	3	2	-1	メディアが十分な役割を果たしていない。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
41	3	2	-1	タウンミーティングなど、研究者と国民の交流の場が限られているため。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
42	4	3	-1	取り組みはあると思われるが、実になっていないように思われる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
43	4	3	-1	接点はあるが「理解」に至っていない。(公的研究機関,その他,男性)
44	2	1	-1	実態が見えてこない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
45	4	2	-2	研究者、国民、メディア等が双方向で対話・協働している取り組みがあるとは思えない。メディアに関しては、話題性のある部分を大きく取り上げているように思う時がある。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,女性)
46	3	1	-2	資源の集中化では他との競争となり、協働の発想が生まれ難いと思う(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
47	3	1	-2	形式的には行われているが、本来、課題を解決する取組までは行けていない。(公的研究機関,社長・学長等クラス,女性)
48	4	2	-2	国民の科学技術に対するリテラシーを向上させる取組を地道に続ける必要があると感じます。愚民化政策をやっている場合ではありません。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
49	3	1	-2	メディアと研究者の対話や協働が不十分であると思う。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
50	4	2	-2	そういうことが実施されていることを少なからず自分には解らない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

Q604. 我が国において、グローバルなニーズを先取りする研究開発や新ビジネスの創出が十分に行われていると思いますか。

		2017年度調査										各年の指数					指数の変化						
		分からない	6点尺度回答者数(人)						回答者 合計(人)	指数	第1四分 点	中央値	第3四分 点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20 最新年	
			1	2	3	4	5	6															
回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	3	9	36	50	20	4	1	120	3.6	2.6	3.8	4.8	3.8	3.6	-	-	-	-0.16	-	-	-	1
	大学等	3	6	28	43	19	4	1	101	3.8	2.8	4.0	5.0	3.9	3.8	-	-	-	-0.12	-	-	-	2
	公的研究機関	0	3	8	7	1	0	0	19	2.6	2.0	3.0	4.1	3.1	2.6	-	-	-	-0.42	-	-	-	3
	イノベーション俯瞰グループ	27	86	204	170	100	19	0	579	3.2	2.1	3.3	4.7	3.4	3.2	-	-	-	-0.19	-	-	-	4
	大企業	8	18	68	55	40	7	0	188	3.5	2.4	3.6	5.0	3.6	3.5	-	-	-	-0.12	-	-	-	5
	中小企業・大学発ベンチャー	12	30	49	32	17	8	0	136	2.9	1.8	3.0	4.5	3.2	2.9	-	-	-	-0.27	-	-	-	6
	中小企業	8	10	22	17	10	5	0	64	3.3	2.1	3.3	4.9	3.4	3.3	-	-	-	-0.13	-	-	-	7
	大学発ベンチャー	4	20	27	15	7	3	0	72	2.5	1.5	2.7	4.1	2.9	2.5	-	-	-	-0.39	-	-	-	8
	橋渡し等	7	38	87	83	43	4	0	255	3.1	2.2	3.4	4.7	3.3	3.1	-	-	-	-0.21	-	-	-	9
	男性	27	90	225	208	116	21	0	660	3.3	2.2	3.5	4.8	3.4	3.3	-	-	-	-0.20	-	-	-	10
性別	女性	3	5	15	12	4	2	1	39	3.3	2.2	3.3	4.6	3.2	3.3	-	-	-	0.06	-	-	-	11
	社長・役員、学長等クラス	12	50	115	120	49	11	1	346	3.2	2.2	3.4	4.6	3.4	3.2	-	-	-	-0.18	-	-	-	12
	部長、教授クラス	12	35	91	77	56	8	0	267	3.3	2.2	3.5	4.9	3.6	3.3	-	-	-	-0.27	-	-	-	13
	主任研究員、准教授クラス	0	6	17	11	10	3	0	47	3.4	2.2	3.4	5.2	3.2	3.4	-	-	-	0.22	-	-	-	14
	研究員、助教クラス	1	1	4	3	0	1	0	9	3.1	2.2	3.1	4.3	4.3	3.1	-	-	-	-1.17	-	-	-	15
	その他	5	3	13	9	5	0	0	30	3.1	2.2	3.2	4.5	3.2	3.1	-	-	-	-0.11	-	-	-	16
	任期あり	8	35	110	107	52	9	1	314	3.3	2.3	3.5	4.7	3.6	3.3	-	-	-	-0.25	-	-	-	17
	任期なし	22	60	130	113	68	14	0	385	3.2	2.1	3.4	4.8	3.3	3.2	-	-	-	-0.14	-	-	-	18
	学長・機関長等	3	9	36	50	20	4	1	120	3.6	2.6	3.8	4.8	3.8	3.6	-	-	-	-0.16	-	-	-	19
	マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
大学・公的研究機関を対象	現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
	大規模PJの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
	国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
	公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
	私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
	第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
	第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
	第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
	第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
	理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
大学部局分野を対象	工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
	農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
	保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33
	産官連携活動あり(過去3年間)	22	68	170	138	84	17	0	477	3.2	2.2	3.3	4.8	3.4	3.2	-	-	-	-0.20	-	-	-	34
	なし	5	18	34	32	16	2	0	102	3.0	2.0	3.3	4.6	3.1	3.0	-	-	-	-0.13	-	-	-	35
イノベーション俯瞰G	あり(過去3年間)	8	37	92	66	46	13	0	254	3.3	2.1	3.3	4.9	3.3	3.3	-	-	-	-0.08	-	-	-	36
	大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)なし・分からない	12	25	60	48	23	2	0	158	2.9	2.1	3.2	4.5	3.3	2.9	-	-	-	-0.34	-	-	-	37
	全回答者(属性無回答を含む)	30	95	240	220	120	23	1	699	3.3	2.2	3.4	4.8	3.4	3.3	-	-	-	-0.18	-	-	-	38

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q604. (意見の変更理由)我が国において、グローバルなニーズを先取りする研究開発や新ビジネスの創出が十分に行われていると思いますか。

	2016	2017	差	
1	1	3	2	実効性のある研究が少ないように思われる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
2	2	4	2	東南アジアへの取り組みを知って認識が変わりました。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	2	3	1	競争的な支援プロジェクトが最近は一足進んでいる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
4	3	4	1	目の前の問題として国が取り組まざるを得ない状況となっているだけで,グローバルなニーズを先取りしてという感じはしない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
5	2	3	1	以前よりも行われていると思うが,どうしても今後ますます巨大化する中国の影響を考慮したニーズ見直しが必要。(大学,部長・教授等クラス,男性)
6	2	3	1	グローバルなニーズへの日本としての課題認識と施策案は進んでいるようだが,実態としては世界に遅れを取っていて,さらに加速が必要。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
7	2	3	1	公的研究機関,私立大学,旧国立大学(好ましいとは思わないが)が挙げて実業を目指す研究を増やしていると感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
8	2	2	0	語学力が不十分。(大学,部長・教授等クラス,男性)
9	1	1	0	グローバルニーズを満たすような予算がそもそもない。Gates Foundationのような予算がない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
10	2	2	0	大学の国際化の遅れが大きいと思われる。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
11	3	3	0	良い発想が湧き出ているような気がします。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
12	1	1	0	本来はニーズからシーズや研究開発がされるべきであるが,分野の本日が分かっているトップダウンで決まる研究分野が多すぎる。(公的研究機関,社長・学長等クラス,女性)
13	3	3	0	研究開発では「不可能な地震予知」に多くの研究費が支出された。しかし成果なし。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
14	2	2	0	たまにニュースなどで取り上げられるが,それだけでは適切な数なのかが判断つかない。単純に景気を見る限り,足りてないのでは。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
15	4	4	0	大学ベンチャー発を最近よく聞くようになった。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
16	1	1	0	SDGs等,グローバル課題解決への積極的な取り組み事例は少ない。また,国の支援も不明確。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
17	1	1	0	SIPのテーマの中で,一部進みつつあると思いますので,その成果を見極めていけばいいと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
18	2	1	-1	世界との格差の拉がりを感ずる(大学,部長・教授等クラス,男性)
19	4	3	-1	ガラパゴス化が進んでいる分野も。(大学,部長・教授等クラス,男性)
20	4	3	-1	わが国のもっとも苦手とするところであろう。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
21	2	1	-1	ない。メディアもそういうニュースを流していない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
22	3	2	-1	グローバルなニーズは多様に広がっているが,研究対象となっているのは狭い範囲に留まる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
23	2	1	-1	グローバルなニーズを先取りする研究開発はあるかもしれないが,新ビジネスに関しては,米国発ばかりの気がしている。日本は世界の先進国から遅れていく気がする。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
24	2	1	-1	一連の日本パッケージとして出せておらず,パワーが足りない印象(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
25	3	2	-1	原発はやはりダメ,代替エネルギーや省エネ技術をもっと取り組むべき。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
26	4	2	-2	グローバル意識を持った人材,指導者が足りない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
27	4	2	-2	不足。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

Q605. 我が国が強みを持つ技術やシステムの海外展開に際して、官民が一体となった取組が十分に行われていると思いますか。

		2017年度調査										各年の指数					指数の変化							
		分からない	6点尺度回答者数(人)						回答者 合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
			1	2	3	4	5	6																
回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	9	7	31	47	26	3	0	114	3.8	2.8	4.0	5.0	3.7	3.8	-	-	-	0.05	-	-	-	-	1
	大学等	9	4	22	43	23	3	0	95	4.0	3.2	4.2	5.2	4.0	4.0	-	-	-	0.02	-	-	-	-	2
	公的研究機関	0	3	9	4	3	0	0	19	2.7	2.0	2.9	4.3	2.4	2.7	-	-	-	0.29	-	-	-	-	3
	イノベーション俯瞰グループ	48	58	203	198	81	16	2	558	3.3	2.3	3.5	4.7	3.5	3.3	-	-	-	-0.18	-	-	-	-	4
	大企業	12	12	70	66	30	4	2	184	3.5	2.5	3.6	4.7	3.6	3.5	-	-	-	-0.14	-	-	-	-	5
	中小企業・大学発ベンチャー	16	21	49	42	16	4	0	132	3.0	2.1	3.2	4.5	3.2	3.0	-	-	-	-0.22	-	-	-	-	6
	中小企業	9	7	24	19	11	2	0	63	3.3	2.3	3.4	4.8	3.4	3.3	-	-	-	-0.11	-	-	-	-	7
	大学発ベンチャー	7	14	25	23	5	2	0	69	2.7	1.9	3.0	4.3	3.0	2.7	-	-	-	-0.30	-	-	-	-	8
	橋渡し等	20	25	84	90	35	8	0	242	3.3	2.4	3.6	4.7	3.5	3.3	-	-	-	-0.20	-	-	-	-	9
	男性	52	61	222	228	103	19	2	635	3.4	2.4	3.6	4.7	3.6	3.4	-	-	-	-0.18	-	-	-	-	10
	女性	5	4	12	17	4	0	0	37	3.1	2.4	3.6	4.5	2.6	3.1	-	-	-	0.53	-	-	-	-	11
	社長・役員、学長等クラス	26	31	116	124	52	9	0	332	3.3	2.4	3.6	4.7	3.4	3.3	-	-	-	-0.03	-	-	-	-	12
	部長、教授クラス	20	30	81	98	41	7	2	259	3.4	2.4	3.6	4.7	3.7	3.4	-	-	-	-0.27	-	-	-	-	13
	主任研究員、准教授クラス	4	2	19	12	8	2	0	43	3.5	2.4	3.4	4.9	3.6	3.5	-	-	-	-0.13	-	-	-	-	14
	研究員、助教クラス	2	0	4	2	1	1	0	8	3.8	2.5	3.3	5.0	4.6	3.8	-	-	-	-0.82	-	-	-	-	15
雇用形態	その他	5	2	14	9	5	0	0	30	3.1	2.3	3.2	4.5	3.4	3.1	-	-	-	-0.27	-	-	-	-	16
	任期あり	22	25	109	114	48	4	0	300	3.3	2.4	3.6	4.7	3.6	3.3	-	-	-	-0.26	-	-	-	-	17
	任期なし	35	40	125	131	59	15	2	372	3.4	2.4	3.6	4.8	3.5	3.4	-	-	-	-0.05	-	-	-	-	18
	業務内容別	9	7	31	47	26	3	0	114	3.8	2.8	4.0	5.0	3.7	3.8	-	-	-	0.05	-	-	-	-	19
	大学・公的研究機関等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
	マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
	現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
	大規模PJの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
	国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
	公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
	私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
	第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
	第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
	第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
	第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
大学部局分野を対象	理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
	工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
	農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33
	保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34
	産学官連携活動あり(過去3年間)	37	48	163	166	71	12	2	462	3.3	2.4	3.5	4.7	3.5	3.3	-	-	-	-0.14	-	-	-	-	35
イノベーション俯瞰G	なし	11	10	40	32	10	4	0	96	3.1	2.3	3.3	4.5	3.5	3.1	-	-	-	-0.41	-	-	-	-	36
	大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	13	25	91	89	36	7	1	249	3.3	2.3	3.5	4.7	3.3	3.3	-	-	-	-0.03	-	-	-	-	37
	なし(分からない)	20	16	59	53	19	2	1	150	3.1	2.3	3.3	4.5	3.5	3.1	-	-	-	-0.36	-	-	-	-	38
全回答者(属性無回答を含む)		57	65	234	245	107	19	2	672	3.4	2.4	3.6	4.7	3.5	3.4	-	-	-	-0.14	-	-	-	-	39

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q605. (意見の変更理由)我が国が強みを持つ技術やシステムの海外展開に際して、官民が一体となった取組が十分に行われていると思いますか。

	2016	2017	差	
1	2	4	2	東南アジアへの取り組みを知って認識が変わりました。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	2	3	1	外交等を通じ,徐々に進展していると思う。(大学,部長・教授等クラス,男性)
3	2	3	1	最近積極的に行われているように思う(大学,部長・教授等クラス,男性)
4	2	3	1	科学外交が次第に受け入れられつつある(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
5	2	3	1	安倍首相や大臣等国会の方々のトップセールスが影響していると感じるときがあります。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
6	1	2	1	官による国際規格化の動きが見られた。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
7	3	3	0	実例をもっと国民に広報すべき。(大学,部長・教授等クラス,男性)
8	1	1	0	役人管理型予算はやめるべき(大学,部長・教授等クラス,男性)
9	1	1	0	まったくくなっていない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
10	1	1	0	日本の強みが薄らいでいないか？(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
11	2	2	0	インフラのような大型案件以外は,民主導であり,官との連携は多くない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
12	1	1	0	世界の動向を理解しているとは思えない。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
13	4	4	0	ただ,外部への発信が不十分です。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
14	2	2	0	海外への展開は,行われていますが,継続的な人的交流が重要だと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
15	2	2	0	どのようなプロセスでそういった活動を提起していけるか？の方法論の情報公開と告知が分かりにくい。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	4	3	-1	減退気味ではないか。(大学,部長・教授等クラス,男性)
17	4	3	-1	特に先進的研究について出遅れ感がある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
18	3	2	-1	該当する事例を聞くことがあまりない(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
19	5	4	-1	一体感がさほど強いとは思えない(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
20	3	2	-1	技術で勝っていながらビジネスで負けるのは,海外展開における姿勢に見直すべき点があることを示唆する。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
21	3	2	-1	海外への発信力は弱まっているように感じた(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
22	3	2	-1	最近事例を聞かないため。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
23	5	4	-1	インダストリー4.0など言葉は先行しているが,もっと国の支援が必要。(民間企業等,その他,男性)
24	5	2	-3	戦略を練る機会が少ない。(大学,その他,男性)

Q606. インクルーシブ・イノベーション(新興国や途上国も包摂した形の持続可能なイノベーション)実現のために、我が国において新興国や途上国との人的ネットワークを強化する取組は十分に行われていると思いますか。

回答者グループ		2017年度調査										各年の指数					指数の変化							
		分からない	6点尺度回答者数(人)						回答者 合計(人)	指数	第4 分点	中央値	第3四 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最 新年	
			1	2	3	4	5	6																
回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	6	3	45	40	25	4	0	117	3.7	2.6	3.8	5.0	3.8	3.7	-	-	-	-0.11	-	-	-	-	1
	大学等	6	2	32	37	23	4	0	98	3.9	2.8	4.0	5.2	4.0	3.9	-	-	-	-0.06	-	-	-	-	2
	公的研究機関	0	1	13	3	2	0	0	19	2.6	2.1	2.8	3.5	3.0	2.6	-	-	-	-0.37	-	-	-	-	3
	イノベーション俯瞰グループ	96	50	198	172	70	20	0	510	3.3	2.3	3.4	4.6	3.3	3.3	-	-	-	-0.07	-	-	-	-	4
	大企業	29	8	67	61	24	7	0	167	3.5	2.5	3.6	4.7	3.6	3.5	-	-	-	-0.11	-	-	-	-	5
	中小企業・大学発ベンチャー	34	17	42	37	15	3	0	114	3.0	2.1	3.3	4.5	3.1	3.0	-	-	-	-0.10	-	-	-	-	6
	中小企業	21	7	16	17	9	2	0	51	3.3	2.3	3.6	4.8	3.4	3.3	-	-	-	-0.06	-	-	-	-	7
	大学発ベンチャー	13	10	26	20	6	1	0	63	2.8	2.0	3.0	4.3	2.9	2.8	-	-	-	-0.13	-	-	-	-	8
	橋渡し等	33	25	89	74	31	10	0	229	3.2	2.3	3.3	4.6	3.3	3.2	-	-	-	-0.03	-	-	-	-	9
	男性	99	46	230	200	90	22	0	588	3.4	2.4	3.5	4.7	3.5	3.4	-	-	-	-0.10	-	-	-	-	10
性別	女性	3	7	13	12	5	2	0	39	3.1	2.0	3.3	4.6	2.6	3.1	-	-	-	0.51	-	-	-	-	11
	社長・役員、学長等クラス	49	27	122	109	44	7	0	309	3.2	2.4	3.4	4.6	3.3	3.2	-	-	-	-0.09	-	-	-	-	12
	部課長、教授クラス	35	22	88	83	40	11	0	244	3.4	2.4	3.6	4.8	3.5	3.4	-	-	-	-0.10	-	-	-	-	13
	主任研究員、准教授クラス	8	3	14	11	9	2	0	39	3.6	2.5	3.7	5.2	3.2	3.6	-	-	-	0.45	-	-	-	-	14
	研究員、助教クラス	1	0	5	3	0	1	0	9	3.3	2.4	3.2	4.3	5.0	3.3	-	-	-	-1.67	-	-	-	-	15
	その他	9	1	14	6	2	3	0	26	3.4	2.3	3.1	4.6	3.6	3.4	-	-	-	-0.20	-	-	-	-	16
	任期あり	42	16	117	96	45	6	0	280	3.3	2.4	3.5	4.7	3.5	3.3	-	-	-	-0.21	-	-	-	-	17
	任期なし	60	37	126	116	50	18	0	347	3.3	2.3	3.5	4.7	3.3	3.3	-	-	-	0.04	-	-	-	-	18
	業務内容別	6	3	45	40	25	4	0	117	3.7	2.6	3.8	5.0	3.8	3.7	-	-	-	-0.11	-	-	-	-	19
	大学・公的研究機関Gを対象	学長・機関長等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マネジメント実務		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
現場研究者		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
大規模PJの研究責任者		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
国立大学等		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
公立大学		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
私立大学		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
第1グループ		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
第2グループ		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
第3グループ		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
大学部局分野を対象	第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
	理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
	工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
	農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33
	保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34
	産学官連携活動あり(過去3年間)	75	41	157	149	60	17	0	424	3.3	2.4	3.5	4.7	3.3	3.3	-	-	-	0.03	-	-	-	-	35
	なし	21	9	41	23	10	3	0	86	3.0	2.2	3.0	4.4	3.6	3.0	-	-	-	-0.55	-	-	-	-	36
	大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	38	17	89	75	34	9	0	224	3.4	2.4	3.5	4.7	3.3	3.4	-	-	-	0.07	-	-	-	-	37
	なし・分からない	37	16	50	50	11	6	0	133	3.1	2.2	3.4	4.5	3.4	3.1	-	-	-	-0.28	-	-	-	-	38
	全回答者(属性無回答を含む)	102	53	243	212	95	24	0	627	3.3	2.4	3.5	4.7	3.4	3.3	-	-	-	-0.07	-	-	-	-	39

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。
 注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q606. (意見の変更理由)インクルーシブ・イノベーション(新興国や途上国も包摂した形の持続可能なイノベーション)実現のために、我が国において新興国や途上国との人的ネットワークを強化する取組は十分に行われていると思いますか。

	2016	2017	差	
1	3	4	1	ODAレベルでは相変わらずモノの支援が全面に立ち、ヒトが見えない局面が多いと感じる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
2	1	2	1	人的ネットワークを支援するような支援事業が散見されるようになった。(大学,部長・教授等クラス,男性)
3	2	3	1	戦略的なODAの試みが進みつつある(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
4	2	3	1	大学によっては,外国人留学生が多くて,技術,知財権の確保をどうするかというのが,懸念事項か。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
5	2	3	1	国,大学レベルで取組は進んでいるよう。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
6	1	2	1	いくつかみかける(日ASEAN新産業創出事業,SATREPS等)(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
7	2	3	1	アジアの研究者との連携が一部で強化されている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
8	1	1	0	上述と同様で,Gates Foundationの予算がない(大学,部長・教授等クラス,男性)
9	1	1	0	非常に後退した。中国,ヨーロッパに完敗。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
10	2	2	0	進展は必要だが,その活動を通した日本の国益を充分に考慮する必要があると考える。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
11	1	1	0	まったくされていない。しかし,この方向性を加速させることは有意義である。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
12	1	1	0	大学の先生が,新興国へ出かけて,授業等を行う活動をしていることは,よく聞きます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
13	3	2	-1	このような取り組みに参加した若手のその後の処遇について政府はどう考えているのか。まさか自助努力というわけにはいかないだろう。(大学,部長・教授等クラス,男性)
14	4	3	-1	今後期待したい。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
15	2	1	-1	取り組みはやっていると思うが,実態が見えてこない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
16	3	2	-1	該当する事例を聞くことがあまりない(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
17	3	2	-1	日本での研究に余り興味を抱いていないのか?(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
18	5	4	-1	一部の大学ではなされている。(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
19	3	1	-2	日本の技術が,韓国や中国に流出して,その結果日本の産業が比較下位になっている現実を,官と政治は考えたことがありますか?なんでも出せばよいというものではありません。高度な国家的戦略のもとに判断する必要がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
20	5	2	-3	海外人員のみならず都市部の人員数の制限(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

Q607. 我が国の政府に対する科学的助言の仕組みや体制は十分に機能していると思いますか。

回答者グループ		2017年度調査										各年の指数					指数の変化								
		分からない	6点尺度回答者数(人)						回答者 合計(人)	指数	第1四分 分点	中央値	第3四分 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新 年		
			1	2	3	4	5	6																	
大学・公的研究機関 を対 象	回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	5	11	38	44	23	2	0	118	3.4	2.5	3.7	4.8	3.7	3.4	-	-	-	-0.27	-	-	-	1	
		大学等	5	7	31	38	21	2	0	99	3.6	2.6	3.8	4.9	3.8	3.6	-	-	-	-0.16	-	-	-	2	
		公的研究機関	0	4	7	6	2	0	0	19	2.6	1.8	3.0	4.2	3.5	2.6	-	-	-	-0.84	-	-	-	3	
		イノベーション俯瞰グループ	95	60	171	156	101	22	1	511	3.4	2.3	3.6	5.0	3.5	3.4	-	-	-	-0.05	-	-	-	4	
		大企業	30	10	48	65	37	6	0	166	3.8	2.8	4.0	5.1	3.6	3.8	-	-	-	0.14	-	-	-	5	
		中小企業・大学発ベンチャー	37	16	44	27	19	4	1	111	3.2	2.1	3.2	4.8	3.3	3.2	-	-	-	-0.16	-	-	-	6	
		中小企業	22	7	24	8	8	3	0	50	3.0	2.0	2.9	4.7	3.1	3.0	-	-	-	-0.09	-	-	-	7	
		大学発ベンチャー	15	9	20	19	11	1	1	61	3.3	2.2	3.5	4.8	3.5	3.3	-	-	-	-0.22	-	-	-	8	
		橋渡し等	28	34	79	64	45	12	0	234	3.3	2.2	3.4	5.0	3.5	3.3	-	-	-	-0.15	-	-	-	9	
		男性	93	67	200	189	116	21	1	594	3.4	2.3	3.6	4.9	3.5	3.4	-	-	-	-0.12	-	-	-	10	
		女性	7	4	9	11	8	3	0	35	3.8	2.5	4.0	5.5	3.5	3.8	-	-	-	0.28	-	-	-	11	
		職位	社長・役員、学長等クラス	51	28	103	110	59	6	1	307	3.4	2.5	3.7	4.8	3.6	3.4	-	-	-	-0.18	-	-	-	12
			部長、教授クラス	31	36	85	69	48	10	0	248	3.3	2.2	3.4	4.9	3.4	3.3	-	-	-	-0.12	-	-	-	13
			主任研究員、准教授クラス	6	2	13	12	10	4	0	41	4.0	2.7	4.1	5.6	3.4	4.0	-	-	-	0.64	-	-	-	14
			研究員、助教クラス	3	0	3	1	2	1	0	7	4.3	2.6	4.2	6.0	4.0	4.3	-	-	-	0.29	-	-	-	15
		雇用形態	その他	9	5	5	8	5	3	0	26	3.7	2.2	4.0	5.5	3.6	3.7	-	-	-	0.11	-	-	-	16
任期あり	49		19	100	90	56	8	0	273	3.5	2.5	3.7	4.9	3.7	3.5	-	-	-	-0.15	-	-	-	17		
学長・機関長等	51		52	109	110	68	16	1	356	3.4	2.2	3.6	4.9	3.4	3.4	-	-	-	-0.05	-	-	-	18		
任期なし	5		11	38	44	23	2	0	118	3.4	2.5	3.7	4.8	3.7	3.4	-	-	-	-0.27	-	-	-	19		
大学・公的研究機関 を対 象	マネジメント実務		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	
	現場研究者		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	
	大規模PJの研究責任者		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	
	国立大学等		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	
	公立大学		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	
	私立大学		0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	
	大学グループ		第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
			第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
			第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
			第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
	大学部局分野 を対 象		理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
			工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
		農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32	
		保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33	
	イノベーション 俯瞰G	産学官連携活動あり(過去3年間)	77	51	128	131	90	21	1	422	3.5	2.4	3.7	5.1	3.6	3.5	-	-	-	-0.01	-	-	-	34	
		なし	18	9	43	25	11	1	0	89	2.9	2.2	3.0	4.3	3.2	2.9	-	-	-	-0.24	-	-	-	35	
大学・公的研究機関等の 知財活用(企業等)		40	17	73	72	52	8	0	222	3.6	2.5	3.8	5.1	3.6	3.6	-	-	-	0.02	-	-	-	36		
なし・分からない		43	17	44	44	17	4	1	127	3.2	2.2	3.4	4.6	3.3	3.2	-	-	-	-0.04	-	-	-	37		
全回答者(属性無回答を含む)		100	71	209	200	124	24	1	629	3.4	2.4	3.6	4.9	3.5	3.4	-	-	-	-0.09	-	-	-	38		

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q607. (意見の変更理由)我が国の政府に対する科学的助言の仕組みや体制は十分に機能していると思いますか。

	2016	2017	差	
1	3	5	2	特定した分野では助言が行われている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	2	4	2	学会の役割の一つは科学的助言を行うということであるというのが浸透しつつあるように思われる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
3	3	4	1	仕組みや体制はそれなりに出来ていて助言しているが,政府のどの省庁が対応,実施していくかが不明確で,また省庁間の連携が薄い。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
4	3	4	1	CSTIが行っており,SIPでその成果が出てくるかと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
5	3	3	0	特にマスコミには偏った都合の良い報道をしないでほしい。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
6	2	2	0	多くの助言があるが,地方大学では,実現するための予算が不十分である。(大学,社長・学長等クラス,男性)
7	3	3	0	学術会議は,機能不全(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
8	3	3	0	むしろ後退している(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
9	6	6	0	学術会議が反政府的言動をするため,政府が恣意的に委員を選べる「総合科学技術・イノベーション会議」を設け,政府の意向に沿った【助言?】をしているので,政府にとっては十分に機能している。国民に対して機能しているかは不明。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
10	2	2	0	役人の作文を追認しているように見える。作成者自身がリスクをとっていないように思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
11	1	1	0	偏りがある(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
12	3	3	0	取組はされていると感じます。が,更に充実していただきたいです。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
13	1	1	0	不十分ではあるが,では誰ができるのかというところでできる人が見当たらない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
14	1	1	0	聞く耳を持っているか不明であるが。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
15	3	3	0	助言はあると思うが,それに対して結局省庁縦割り等分に実施,などの形になったりして分割損が多い。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
16	2	2	0	学会からの発信が特定の人材に偏っている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
17	3	2	-1	制度はあっても機能低下が進んでいると感じられてならない(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
18	3	2	-1	政府に対する科学的助言を行うべき人材の不足を感じている。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
19	3	2	-1	助言が具体的な問題解決に繋がった事例を知らない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
20	4	3	-1	地震調査研究については,法律に基づいて地震調査研究推進本部が整備されているが,火山災害についてはない。危機管理を統合的に所轄する組織を整備して,科学的助言を行う必要がある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
21	2	1	-1	グローバルプレゼンスが小さすぎ(大学,部長・教授等クラス,男性)
22	2	1	-1	政府側に研究の分かる博士が少ない(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
23	2	1	-1	皆無(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
24	5	4	-1	分野ごとにそれぞれの立場があるにしても,広く世界の知識人の参加を増やした方が良いのでは。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
25	3	2	-1	予算を見ると,十分に機能しているとは言い難い。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
26	3	1	-2	政府はアカデミアからの助言を必要だと考えているのだろうか? CSTIは科学者の集まりではないので,科学者が政府(文科省やCSTI)にきちんと助言できる体制が必要。学術会議は形がよい化しているのでため。(大学,部長・教授等クラス,男性)
27	3	1	-2	政府の持つ権限が強すぎる。既成グループがノサバリすぎる。(大学,その他,男性)

Q608. 基本計画の推進のため、必要な資源の確保や適切な資金配分等を行うための取組を、総合科学技術・イノベーション会議は十分に行っていると思いますか。

		2017年度調査										各年の指数					指数の変化						
		分からない	6点尺度回答者数(人)						回答者 合計(人)	指数	第1四分 分点	中央値	第3四分 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新 年
			1	2	3	4	5	6															
回答者グループ	大学・公的研究機関グループ	8	7	44	29	34	0	1	115	3.6	2.5	3.7	5.3	3.8	3.6	-	-	-	-0.13	-	-	-	1
	大学等	8	3	34	26	32	0	1	96	3.9	2.7	4.0	5.5	3.9	3.9	-	-	-	0.00	-	-	-	2
	公的研究機関	0	4	10	3	2	0	0	19	2.3	1.8	2.6	3.5	3.1	2.3	-	-	-	-0.74	-	-	-	3
	イノベーション俯瞰グループ	148	51	135	155	91	24	2	458	3.6	2.5	3.8	5.0	3.8	3.6	-	-	-	-0.21	-	-	-	4
	大企業	46	8	40	59	30	13	0	150	4.0	2.9	4.1	5.3	4.1	4.0	-	-	-	-0.12	-	-	-	5
	中小企業・大学発ベンチャー	54	16	35	24	16	2	1	94	3.1	2.0	3.1	4.7	3.3	3.1	-	-	-	-0.28	-	-	-	6
	中小企業	34	4	16	9	7	2	0	38	3.3	2.2	3.2	4.9	3.3	3.3	-	-	-	0.03	-	-	-	7
	大学発ベンチャー	20	12	19	15	9	0	1	56	2.9	1.8	3.1	4.6	3.4	2.9	-	-	-	-0.49	-	-	-	8
	橋渡し等	48	27	60	72	45	9	1	214	3.6	2.4	3.8	5.1	3.8	3.6	-	-	-	-0.25	-	-	-	9
	男性	146	54	167	177	119	22	2	541	3.6	2.5	3.8	5.1	3.8	3.6	-	-	-	-0.20	-	-	-	10
性別	女性	10	4	12	7	6	2	1	32	3.6	2.2	3.3	5.3	3.6	3.6	-	-	-	-0.02	-	-	-	11
	社長・役員、学長等クラス	68	27	100	90	65	6	2	290	3.5	2.4	3.7	5.0	3.7	3.5	-	-	-	-0.20	-	-	-	12
	部長、教授クラス	59	26	57	79	46	12	0	220	3.6	2.5	3.9	5.1	3.8	3.6	-	-	-	-0.15	-	-	-	13
	主任研究員、准教授クラス	14	4	6	9	10	3	1	33	4.3	2.8	4.5	6.0	4.4	4.3	-	-	-	-0.14	-	-	-	14
	研究員、助教クラス	4	0	3	0	2	1	0	6	4.3	2.5	3.3	6.3	5.0	4.3	-	-	-	-0.67	-	-	-	15
	その他	11	1	13	6	2	2	0	24	3.3	2.3	3.1	4.4	3.6	3.3	-	-	-	-0.37	-	-	-	16
	任期あり	64	18	88	84	60	6	2	258	3.6	2.5	3.8	5.1	3.9	3.6	-	-	-	-0.29	-	-	-	17
	任期なし	92	40	91	100	65	18	1	315	3.6	2.4	3.8	5.1	3.7	3.6	-	-	-	-0.12	-	-	-	18
	学長・機関長等	8	7	44	29	34	0	1	115	3.6	2.5	3.7	5.3	3.8	3.6	-	-	-	-0.13	-	-	-	19
	マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
大学・公的研究機関Gを対象	現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
	大規模PJの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
	国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
	公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
	私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
	第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
	第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
	第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
	第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
	理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
大学部局分野を対象	工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
	農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
	保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33
	産官連携活動あり(過去3年間)	118	41	106	133	76	23	2	381	3.7	2.5	3.9	5.1	3.9	3.7	-	-	-	-0.18	-	-	-	34
	なし	30	10	29	22	15	1	0	77	3.2	2.2	3.3	4.8	3.5	3.2	-	-	-	-0.30	-	-	-	35
イノベーション俯瞰G	大学・公的研究機関等あり(過去3年間)	59	14	56	71	47	15	0	203	3.9	2.8	4.1	5.4	3.9	3.9	-	-	-	0.02	-	-	-	36
	知財活用(企業等)なし・分からない	63	14	32	36	19	5	1	107	3.5	2.3	3.7	4.9	3.8	3.5	-	-	-	-0.34	-	-	-	37
	全回答者(属性無回答を含む)	156	58	179	184	125	24	3	573	3.6	2.5	3.8	5.1	3.8	3.6	-	-	-	-0.19	-	-	-	38

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q608. (意見の変更理由)基本計画の推進のため、必要な資源の確保や適切な資金配分等を行うための取組を、総合科学技術・イノベーション会議は十分に行っていると思いますか。

	2016	2017	差	
1	3	4	1	情報を目にする機会が増え、理解が若干深まったことにもよる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
2	2	3	1	もっと、機能を強化したほうが良い。(大学,部長・教授等クラス,男性)
3	3	4	1	SIPやImPACTで、これから成果が出始めるかと思えます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
4	2	2	0	地方大学に資金が回ってきていない。(大学,社長・学長等クラス,男性)
5	1	1	0	CSTI有識者議員および役人がお互い仲が悪く、リーダーシップの欠如により、制度設計が政治的(大学,部長・教授等クラス,男性)
6	1	1	0	地方の現状をどこまで認識しているか、疑問である。メンバーが東京など首都圏中心になっている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
7	2	2	0	CSTIは、議員の資質に疑問あり(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
8	3	3	0	更なるリーダーシップとリソース確保,スピードUPに期待したい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
9	6	6	0	特定分野だけを優遇している。各専門学会が近年目標・マイルストーンなどを公表しているので、それらも含めて検討すべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
10	1	1	0	自らの欲望を満たすためにやっているだけ。仕事のない企業に仕事をやっているようなプロジェクトだらけではないか。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
11	2	2	0	全く聞こえてこない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
12	2	2	0	メンバーが固定されている傾向がある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
13	3	2	-1	資源確保,資金確保・配分が常に問題となっており,解決に結び付いていない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
14	4	3	-1	関連省庁の協力が不十分のように見えます。(大学,部長・教授等クラス,男性)
15	4	3	-1	CSTIの構成が偏っている。多様化が必要。委員に専門家が少ない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
16	4	3	-1	議論する人材が固定していないか。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
17	3	2	-1	役人の作文を追認しているように見える。作成者自身がリスクをとっていないように思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
18	3	2	-1	デジタル革命での今,日本全体イノベーションが必要と感じます。科学技術を通した日本の生き残りを考えなければならないと感じています。(科学技術だけではなくが)(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
19	4	2	-2	総合技術会議が省庁の力関係で決められてしまっている(大学,その他,男性)
20	3	1	-2	聞いたこともない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
21	4	1	-3	進捗の遅さ,実態の不明瞭さを感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

Q609. 科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化の状況について、ご意見をご自由にお書きください

- 1 文系も理系も、お互いの最低限の知識を学び、協働する必要があります。文理の垣根が高すぎます。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 2 科学技術イノベーションは10年~20年スパンで起きるものであり,そもそも早期の成果や社会への関係深化を望むのではない。もし望むのであれば,イノベーションとか言わないでほしい。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 3 近年,学術会議が奇妙な声明を出す,研究者の意見を代表しているとも思わないし,社会に有益なコメントとも思わない。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 4 ステークホルダーとの対話・協働は重要ですが,些か真面目にやり過ぎている印象を受けます。ステークホルダーに媚びる,あるいは奇抜さで印象操作しようとする,根を持たない研究者が目立つようになってきています。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 5 大学における全ての活動(特に国立大学法人)は,全て社会貢献である(ステークホルダーは社会)という教育を,教員団に実施すべき。採用研修時(30歳前後)に,徹底的に行うべきである。(大学,第1G,理学,社長・学長等クラス,男性)
- 6 研究者と社会との対話や,両者の間でのフィードバックにつながる議論などは行われているように思うが,互いに求めることとのミスマッチが大きいように感じる。対話の内容を考えて行く必要があるのかもしれない。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 7 研究費を貰えるなら研究者はなんでもするだろうが,自発的に社会とのかかわりを持つことは難しい。研究時間を確保して研究成果を上げたいからであり,それこそが社会に対して果たす役割と考えているから。TVで見かけるクラウドファンディングのような試みは面白いが,ただ成果を分かりやすく出資者に発表することが関係深化と呼んでよいかは疑問である。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 8 個々の研究者に任されているが,博士学生くらいの段階で,全員がこうしたテーマを考える機会を持つべき(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 9 不正防止は重要であるが,不正がゼロになることは残念ながらあり得ない。ゼロにならない以上,合理的な範囲で不正の発生を抑止し,生じた不正に対しては厳罰で処するという,社会で行われている犯罪防止の方策をとるべきである。ゼロにするために,過剰な証拠書類や手続きを教員に強いるのは非合理的であり,知の拠点である大学のあり方として非常にみつとも無い。また,不正に対して,連帯責任を強いるなど,法律学的に否定された連座制や五人組を採用しているに等しく,極めて前時代的な処罰でみつとも無い。海外の研究者に説明するのも恥ずかしい制度であり,何とか改善を希望する。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 10 そもそも「科学技術イノベーション」の概念が,政策的に広報されていて,現実の社会の状況とのギャップを真摯に考える研究の必要性に目が向けられていない。社会問題が本当に科学技術イノベーションで解決されるのか,自省的に考えるべき。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 11 科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化には,行政側の能力と度量が大きい。円卓会議やバブコメ等もガス抜きのためでは,双方向の対話とはいいいにくい。行政官にも知識創造に結びつける取り組み(余裕)がいるのではないか。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 12 研究成果をわかりやすく社会に伝えるためには,研究者自身に取り組みを求めるよりも,広報等の専門人材の育成が必要だと思います。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 13 単に「好きだから」研究をしている人が多い。それなら趣味でやればいいだけで,国民の税金で給料と研究費をもらっているのだから,社会との関係を考える責務があることを分かってない研究者は多い。(大学,第1G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 14 社会との関係を深めようとする取り組みが増えていることは良いことだと感じる。教員の負担も増えることになるが,それでも価値のあることだと思う。(大学,第1G,農学,研究員・助教クラス,女性)
- 15 本件はもう十分。よい研究は必ず社会に還元される。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 16 この点については海外の研究機関と比較して大きな隔りがあるように思われる。大学の研究者として積極的にコミットしていくことが必要である。そのためには税制の措置は不可欠と考える。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 17 科学技術のイノベーションは,多岐にわたる数多くの研究活動の中の一部から生まれるものだと考えられる。そのイノベーションを実社会で実用化させる為に新たな産業が生まれるわけで,産業化や実用化ありきの研究活動では,一部は実用化できるものがあるとしても,世界的なイノベーションを起すような研究を成熟させることは難しいように感じる。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 18 研究成果の社会実装を含めた社会との関係深化が,今後,大学の役割として大きくなっていくと思われる。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 19 科学技術イノベーションの社会との関係深化のために,プロスペクティブなアピールだけでなく,レトロスペクティブな業績とその背景の理解を促す必要があると考える。推進機能を強化するために,基盤研究のベースアップと応用研究のブーストは表裏一体と考える。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 20 社会とのつながりは,予算獲得にも影響するので,以前よりは皆,意識するようになってきていると思う。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)

- 大学に対する様々な要望が出される中で、中長期の社会の有り様を見据えて大学など学術・教育界の見解表明と提案を促し、それを活かす姿勢が希薄である。また、司令塔が寄合になっていて権限と責任の所在が曖昧になっている感がある。(大学、第2G、社長・学長等クラス、男性)
- 21
- 22 いわゆる科学ライターが日本にはいないように思える。○○○のような人を育成すべきである。(大学、第2G、部長・教授等クラス、男性)
- 23
- 科学技術イノベーションは結果であって、目的・目標ではないと考える。例えば、国連SDGsの17の課題解決を目指すための取組の様であって欲しい。そのためには教育の国際化と研究力の強化が不可欠であり、「ミッションの再定義」の実行が推奨されるべきかと考える。イノベーション創出を支える人材育成と自由な着想を誘発させる多様性の確保が望まれる。推進機構の強化は本来の目的に逆行すると思われる。(大学、第2G、理学、部長・教授等クラス、男性)
- 24
- アカデミアは、もっとメディアに対してそもそも「研究」がどういものであるかについて積極的な広報をしなければならない。大学や国立研究開発法人等が研究に税金の投入を受ける事の正当性は、最終的には日本国民の理解・納得に負っており、「世論」により決定される。その、世論形成に多大な影響のある新聞等マスメディアにおける大学についての論説が、かなり底が浅く日和見的で、現場の実情との乖離からくる違和感が常にある。例えば、10年程前には「大学の教員は研究重視で教育をきちんとやらない」と叩かれた。その結果、今や学部でも大学院でも授業が休講されることはなく、シラバスに則り、教員は規定の授業回数をきっちり行うようになった。人減らして教員の数は減っている一方、授業の負担は増えるので、この結果、教員はより授業に拘束されることとなり、国際会議(学会)等、大学の外に出にくくなった。不登校やメンタルに問題を抱える学生およびその親への対応の負担も増した。「大学は象牙の塔に閉じ籠ってないで自ら社会に開かなくてはならない」との批判に対処すべくオープンキャンパス・体験授業なども増え、その結果、対応人員の確保のため若手教員のうちから多様な業務に駆り出され、これも研究時間の減少と、国際会議・海外機関との共同研究の縮小傾向に拍車をかける事となった。その他もろもろ、研究者の研究へのエフォートが削られた結果、日本全体として論文数の低下が顕著になった。そうなのと今度は、「国内に引きこもる研究者・海外に積極的に出て行こうとせず、ガラバゴス化が進む。」との批判を浴びるようになっている。(この次には、何とかして海外渡航や国際共同研究の数が増えるよう対策したら、今度は「足を省みない大学・地域社会への貢献度低し・役立たずで自己変革の能力なし。」と叩かれるに違いない。)マスメディアの論調を中心に構成される社会の要望に、アカデミアが一つ一つ答えるよう努力した結果は、研究に使える時間が減り、運営費交付金の削減傾向も止まらないままというものであり、成果としてとても惨めな状態だ。そもそも、世間の方々、マスメディアの論調を決定する方々の、【続く】
- 25
- 多くはせいぜい大学の学部卒が最終学歴で、博士号まで取った人はそうそう居ない。すなわち、研究がどんなものであるかを経験したことのない方々による研究への批判が、研究の将来に対し大きな影響力を持っている。まず第一の前提として、研究は受験勉強のようにあらかじめ「正解のあることが解っている」ものではない、ということです。もしかすると世間の多くの方々には想像して頂くのが困難なことかもしれない、と思う。このギャップを埋める情報発信の在り方を、アカデミアは真剣に考える必要がある。さもないと、アカデミアの存在意義を「(経済活動を向上させるための直接的な)役に立つ」事でしか主張できない、という現状はますます強化され、その時々トレンドを捉えたごく一分野に風が吹くことがあっても、全体としての衰退化の傾向を止める事は叶わないのでは、と思われる。(大学、第2G、理学、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 26
- 十分に取り組んでいると思う。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- 27
- 各種の倫理講習会等への出席や学内手続きが増え、かえって研究の阻害になっている。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- 28
- 科学技術イノベーションの社会への広報活動は、「一般向け」であり、必ずしも本質に踏み込んだものではない。相互に抱える問題は本質まで踏み込まないと、現状改善の共通認識とはならない。そこで、一方向のプレゼンやデモンストレーションだけではなく、刺激的な、最新の話題の意見交換ができる場の創設が望ましい。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 29
- これだけ多くの人が大学を卒業しているにも関わらず、大学での研究に関する情報や知識が無い人が多いこと自体が問題である。このような状況下では、社会に研究を生かしてもらうことは困難である。実務的な教育を大学でやる機会が増えているが、研究者にならずとも、研究に対する基本的知識や研究を理解する教育をもっとすべきである。そうすることで、大学と企業の連携や企業における研究活用といった、社会的連携が増えると考えられる。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、女性)
- 30
- 前よりも取り組みが増えてきていると感じている。ただ、深化、強化に対して課されている義務が重いように感じている。(大学、第2G、工学、その他、女性)
- 31
- ノーベル賞にかかる報道でよくわかるように、日本人が関係したもしくは受賞した場合のみその報道一色(昨年、一昨年)となるが、そうではない研究成果については全く関心を示さない。日本人がらみの受賞に対する報道であってもその内容の大半は下世話なワイドショー並みのものが多すぎる。この報道の状況は、日本人が本来もっている国民性とは必ずしも一致していないと思いたい。日本人がそんなに知的好奇心が低いとは思えない。その様に捉えると、科学のもつ本来のおもしろさを適切に伝えられる人材の育成し、マスコミにもっと科学的視点をもった人材を多数輩出していく必要性を強く感じている。(大学、第2G、農学、部長・教授等クラス、男性)
- 32
- 基礎研究が即科学技術イノベーションにつながるのと考える方は資金を出す側のおごりであると思う。研究者が応用を考えて基礎研究に取り組むことは必要であるが、最重要ではないと思う。基礎研究から得られた知見を科学技術イノベーションに応用できるか見極める人材の育成も今後重点的に取り組むべきであろう。(大学、第2G、農学、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 33
- 研究者から直接国民に対して科学技術を発信するチャンネルがもっと必要だと感じます。メディアを間に挟むどうしても時事に引っ張られ偏りが出ると感じています。(大学、第2G、農学、研究員・助教クラス、男性)
- 33
- 内閣府のImPACTが最近の典型であるが、誇大広告的に科学研究の成果を発信することにより、社会と科学技術との適切な関係の醸成を妨げている。ベンチャーや科学技術を前面に出して勝負をしている企業の場合、株価への影響など、科学研究と異なる側面での意思決定も行われている。こうした動きに対して研究者側は脆弱であることが多い。規制が必要な段階と思われるが、経済へのプラス効果を配慮して放置されていることが多い。しかし、これは長い目で見ればマイナスにはたらくのではないか。(大学、第2G、保健、部長・教授等クラス、男性)
- 34
- 社会との関係は重要と考えるが、これらに割かれる時間も増大しています。技術者出身ながら社会への周知を専門にするリエゾンのような、間に入って活躍していただける人材も必要と思います。(大学、第2G、保健、主任研究員・准教授クラス、男性)

- 35 ICTを用いた連携の強化が必要である(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 36 政府の政策が浸透していないため,多様な政策を形成し,科学イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化に繋げてほしい.(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 37 生命科学系に関しては,先端科学の研究成果を社会に発信しても理解が難しい.むしろ,高校生物学程度の生命科学リテラシーを広く社会が共有するべきである(例えば,遺伝子組換えは何でも有害であるといった,非科学的な常識を払拭すべき).(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 38 ここ数年日本がノーベル賞を連続してとれているのは,主に20年以上前の研究成果であり,その頃は政府や文科省(文部省)が大学の在り方に今ほど干渉しなかった時代であることに留意すべきである.科学技術のイノベーションは各研究者が自由に研究を楽しんでいる中で生まれるものであり,評価や予算をちらつかせて圧力をかけても生まれるものではない.ましてや無理やり企業と共同研究させたり,それを過度に奨励するのは,イノベーションが起きる仕組みを完全に誤解している.社会とのつながりや倫理教育も同じで,まったく本質を外した形式的な負担だけが残る.たとえば研究不正が起こるのは,研究不正が悪いことだということを知らないからではなく,分不相応な大きな研究費を若い研究者に付け,過度に結果を求めるからである.つまり制度上の問題であって,倫理教育では解決しない.いかに文科省の人間が研究や大学そのものを理解していないかが浮き彫りになっている.(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 39 メディアをもっと積極的に利用する必要あり.(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 40 科学技術に対する社会の認知は極めて低い.科学の本質的な部分への興味を湧かたてて必要がある.(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 41 アメリカ国民と国力は圧倒的な強さを有していますが,アメリカの教育の特徴はたくさん書籍を読んで自分の考えを説明する宿題を通じた訓練を早い段階で行っている点です.国民一人一人に,読解力,強い意志決定力および発言力がない段階では一方的な関係強化になります.現在の数学や理科の暗記系科目に力を入れてその世界順位に注目する時代を終えて,順位に出ないが実質的な国民力(市民力)を強化する時代になるように戦略的な教育政策を実施したと思います.実際,世界順位がトップレベルのアジアの国々が果たして欧米よりも強い国民でしょうか?急速に人口が減少する上で,歯車型人材の供給からリーダーの供給への教育の質的転換が必要です.そのおまけとして労働生産性の向上がもたらされるでしょう.(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 42 より一般の国民にもわかりやすくイノベーション等を伝え,さらにその重要性和今後の必要性を伝える施策はさらに多くても良いと感じる. そうしないと底上げにならないため,メディアとの連携等もさらに検討すべきである.(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 43 論文本数を数える,のではない評価の確立が必要.(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 44 サイエンス・カフェのような取り組みが,もっと頻繁にあつてよいと思います.また,科学博物館や国立博物館などはもっとあつてよいのではないのでしょうか.最先端の知や,地域の知や,私も知りたいと思っても,発信している場所がありません.(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 45 学生の教育とどのように関係づけるのか,検討してもいいかと思います.(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 46 中央に関しては進みつつあるように思えるが,地方ではまだこれからである.(大学,第3G,農学,社長・学長等クラス,男性)
- 47 URAよりもステークホルダーとの対話に支援員を活用した方が効率が良いのでは?(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 48 国会議員など政治家のなかに科学に対する理解に乏しく,怪しげな学説に肩入れしている人がいらっしやるのが気になります.(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 49 研究をするということが個人や社会にとってどういう意味をもつのかということを議論する場がない.(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 50 社会がイノベーションを必要としていることを,研究者に実感させる必要があります.研究は象牙の塔で行うべきものでないと研究者は自覚を持っているようです.しかし実現は難しく,研究者には象牙の塔の外に出る事によりどのような環境変化が起こるかを理解させるべきと考えます.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 51 もっと基礎研究に集中すべきだと思うが,時代のニーズか,かけ離れた活動もしなくてはならない状況に置かれている.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 52 社会リテラシーの偏りが大きくなっており,基盤的推進が困難な状況が進んでいる.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 53 幅広く多くの研究にチャンスを与える方がいい.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 54 倫理規定や利益相反などの規定の変更があるたびに,研究者は時間を取られます.論文を書く暇もないというのが現場です.事務的なことは,事務的なことをする人が行う,研究は研究者が行う,医師免許が必要なことは医者が行う,などの区画整備が必要です.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 55 少なくとも,私の所属する大学の場合,大学が発信源になって社会との関係を深めるというやり方には限界があると,強く感じますので,できるだけ自分が大学以外の社会との接点を多く持つように心がけています.(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 56 科学的な事柄や社会的な事柄では古参のメディア(新聞,テレビ)を信用できない.事柄によっては政治的な立場が影響して枉げられる.(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 社会との対話に関しても、それに特化し、研究者の考えを代弁できる広報の確保など、システムの見直しが必要だと感じています。現状、社会との対話などの、大学教員が「やるべきこと」が昔よりも増え、その一方で、それぞれの研究者の立場は、日々の時間をどうやりくりして研究時間を確保するか、任期が迫ってくる中で成果をどう出していくか、就職活動に多大な時間を要する学生たちに対して、限定された時間でどう教育を行っていくか、に悩んでいます。社会との関係強化にも大学教員が関与すべきなのは理解していますが、それを実施するためには、間に入る人材が必要であると感じています。(大学、第3G、保健、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 有識者会議によって政策が決められているが、メンバーは国立大学当事者でない人たちが多く、現場の意見が届いていないまま改悪が進んでいる。政策決定には国民の意見が重要だが、国民があまりにも科学とその現状について無知識・無関心で、似非科学が蔓延している。(大学、第3G、保健、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 3.11に伴う原発事故以来、専門家の意見が軽視されている状況が継続されているように感じられる。日本社会には寄附文化の醸成が不十分で、国家財政の困窮を補填する寄付金が欧米に比較すると比較にならないくらい少ない。しかも、国内には寄附しない企業が国外に多額の寄付をしている。上記の如く、我が国と欧米の大学・研究の歴史には大差があり、欧米の大学が行っているような産学連携のレベルに短期間で追いつくことは容易なことではない。企業には、大学の産学連携力を育てる意識も欲しいものである。当然、大学は歴史の浅さにあぐらをかいていてはならない。ようするに、産学連携イノベーションの推進には両者の歩み寄りが必要であるが、現状では産からの一方的圧力に学と官(霞ヶ関)が対応出来ないでいる状況に見える。(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
- 多様なステークホルダー間の対話と協働が必要であるという前提のもと、国、大学、公的研究機関等が中心となり共創の場を設けるとともに、研究の公共性を確保するなどの取組を推進することが必要であり、学内において、このための具体的な推進策を現在検討している。(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
- 科学的助言についてより広範囲に意見を聴取し、特定のバイアスによる偏りを極力減らし、国の将来に最も資する形で取り入れていただきたい。(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
- 危機意識を持って取り組まれていることはよくわかるのですが、それぞれの取り組みがばらばらの印象を受けます。(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
- 大学における教育の重要性を強く感じている。(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
- イノベーションを政策でどうにかしようという発想がそもそも間違い。AppleやGoogleはどこから出てきたか。民間の自由な活動が重要であり、大学に強制すべきものではない。(大学、第4G、部長・教授等クラス、男性)
- ステークホルダーを加えた種々の会議が行われる頻度は増えてきたように思われ、それは良い傾向であるが、現在はまだ機能していないように感じている。今後はその質を高めていく必要があり、それをどのように実現するかが課題である。(大学、第4G、部長・教授等クラス、男性)
- 真の独創的科学技术イノベーションは、各研究者を放置することで生まれてきていると思う。余計な対話、会議はしないほうがよいケースも多い。(大学、第4G、部長・教授等クラス、男性)
- イノベーションとその産業化の芽は地方にもあるが、地方での産官学連携は、古いまま。地方での芽を大事に育て、成功事例と人材育成を、国内に多く蓄積することが、総合的国力強化に繋がる。中央主導からの緩やかな脱却。(大学、第4G、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 社会とは何かが分野、研究テーマによって違っている。したがって、社会にとって効果的な研究とは何かが一律には語れない。(大学、第4G、理学、部長・教授等クラス、男性)
- 社会と大学の接点がいまだに少ない。(大学、第4G、工学、社長・学長等クラス、女性)
- 本項目についても、所属大学は完全に不合格である。地域産業への貢献を意識した取組や、地域社会への情報発信を目的とした取り組みは多々行われているが、それらの取り組みを有効に機能させるには、所属している教員の研究教育レベルをさらに上げる必要がある。現状はこれまで書いたとおり、研究も教育も運営もできない教員が多々いるという事、また、研究教育において高いポテンシャルを有する教員が大学改組などの運営業務で消耗しているのが現状である。このような状況で、いくら様々な取り組みを企画しても、うまく機能しないのである。(大学、第4G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- この分野のカタカナ言葉やその使い方、本来の意味が極めて難しく、これがその重要性を周知させるのを妨げている。(大学、第4G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- がんばるしか無い。(大学、第4G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 「研究成果による社会的インパクト」という表現に違和感を感じざるをえない。インパクトのある研究成果を、という風潮による負の面も目にしているはずであり、研究成果の真の価値がどこにあるのか、またそれらをどう評価したらよいのか検討いただきたい。(大学、第4G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 実用化は評価されないのが、社会実装(科学技术イノベーションの社会との関係深化)はむしろ研究者の学内での居心地を悪くします。少なくとも自分はそうです。(大学、第4G、工学、研究員・助教クラス、男性)
- 環境問題で社会とかかわる機会が多くなったが、一般社会との対話が 대중迎合(ポピュリズム)に陥らないようにするため研究者として日頃から注意を払っている。科学的に正しい知識にもとづいた対話はマスメディアよりもネット媒体が圧倒的に有利である。(大学、第4G、農学、部長・教授等クラス、男性)
- 事の正否は別として、一方の主張がクローズアップされることが多くなってきているように感じる。公正な目で判断できる場がより重要になってきていると思う。(大学、第4G、農学、部長・教授等クラス、男性)

- ゆとりをもったステークホルダーとの多角的な会話が行われていない。そのようなダイアログをもとに、運営方法などを見直してこそ、
- 77 あらゆる機関が正常に運営できるであろう。その時間確保やそれを行うために基盤研究にゆとりを持たせる仕組みがない。そのため、十分な活動が行えていないであろう。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 78 研究と社会の関わりはまだまだ十分でないと思います。研究者としても、認識すべきところであると考えているものの、どのように(何をすれば)よいのかよく分からないところがあるように思います。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 79 説明責任はかならず必要であるが、ステークホルダーの意見で科学研究政策が大きく影響されすぎるのはどうなのかなと思う。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 80 ニーズとシーズのマッチングがうまく噛み合わず、イノベーションに繋がっていないように感じる。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 81 文系と理系を分けようとする発想そのものが、社会全体としてかなり障害になっている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 82 実働する研究者とそれを預かる長は忙しく、また国民と意見を交換する場は限られているため、対話ができていません。そのための策は、そういった場を設けることというよりも、余裕のない研究現場にもっとお金が回るようになれば、時間的、人材的に余裕ができて、研究者がそういった交流に時間を廻すことができるようになるのではないかと思います。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 83 国民が、受賞やスキャンダルには食いついてくるせいか、メディアが科学技術をしっかり取り上げる機会が少ないように思う。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 84 この点に関して、所属している学会のメーリングリストを通して、実に様々な会合・取り組みが行われていることは知っていますが、大部分の大学関係者や一般市民ともなると、ほとんど知る機会がないと思われます。皆がチェックしたくなるような工夫をこらしたポータルサイトのようなものを作ってはどうか。テレビで紹介された論文はフルテキストで読めるようにしていただけると、人気が出ると思うのですが。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 85 科学技術と社会の係わり合いについては組織的に行うべきであろうが実質的にはかかわりは極めて少ない。大学、研究所の一般公開を社会とのかかわりに積極的に使うべき。各大学、研究機関は専門知識を持つ広報部門を持つべき。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 86 科学と技術は別物である。そのことを混同されているとイノベーションが陳腐化する。そうした観点がわかっているならば、上の質問のほとんどは意味がない。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 87 研究者が、研究者も理想の社会像を考えるべきだ、という認識を持たないといけないと感じる。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 88 教育活動以外に社会と科学技術の関係が深化することはないと思う。教育環境の改善といった地道な努力以外にないと思う。(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,男性)
- 89 科学コミュニケーションの役割は重要であるが、研究者の意識を高める工夫においては時間をかけた取り組み、インセンティブの付与とともにわかりやすい説明を行うための方法や技術の開発が求められる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 90 政府の政策が浸透していないため、多様な政策を形成し、科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化に繋げてほしい。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 91 大学の研究成果を社会実装するには、資金が必要であるが、地域の中小企業は資金がなく、参画できないケースが出てきており、研究開発力において、大企業と中小企業の格差が出てきている。そのため、大企業と中小企業の賃金における格差は将来広がると推測される。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 92 工学系の学部・研究科は科学技術イノベーションを担う人材を養成するのが、社会との最も深いかわりと思う。その立場に立てば、工学系の学部・研究科は機能がかなり低下していると思う。高大接続の時点でのミスマッチや、養成人材と社会ニーズとの間のミスマッチが大きくなっているように思う。教員の評価や人事制度、あるいは学問の自由といった問題も呼び起こす複雑な問題であるが、工学の性質を考えると、我が国の科学技術イノベーションにとって、待ったなしの状況になりつつあると思う。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 93 国の科学研究開発資金の選択的かつ集中的な投入がイノベーション創出に必要なことは当然であるが、各省庁が流行りの分野に重ねて投資する傾向は未だに見られるように思われる。広く意見の取り入れを行い、費用対効果を十分に先読みした効率的な資金投入とともに、堅実な発展が期待される分野への投資とのバランスを取ることが限られた財源を活かす上で重要と考えられる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 94 先端的な研究成果による社会的インパクトを多面的に評価できる人材が育っていない。論文発表やインパクトファクターが主たる業績評価の基準とされ、alternativeな基準が考案されていない。人文・社会科学及び自然科学の連携が必須なことは多くの研究者も(漠然と)認識していると思われるが、(先端研究に比して)目に見える研究成果を出しにくい。研究評価の基準も明確ではない。プロジェクトの予算規模と予算配分が難しい。すでに一定の成果を持っている理工系に、多少の人文・社会系を組み合わせても、新しい社会基盤は生まれない。「一定の成果」の方向性に引っ張られてしまう。人文・社会系が中心のチームに、多少の理工系が加わっても、具体性のある研究はできない。長期的な視点で、分野横断的な研究や評価のできる人材を育てるしかないのかもしれない。(大学,社長・学長等クラス,男性)
- 95 多くの大学(大学教員)が研究費を求めて企業他の団体に接触し、交流がある。それらの大学の組織的支援のしきりはほぼ完成しており、これ以上進めると教育に差し支えるところまで来ていると思われる。大学は教育のバランス上、研究費を稼げる教員のみを集めることはできない。企業がもし先端的知識と技術を大学に求めるならば、大きなテーマごとに教育は二の次とする時限の研究共同体を造り、資源と人材を大学とともに投入すべきである。(大学,社長・学長等クラス,男性)

- 96 人文・社会科学領域が教育・研究面で冷遇されていると思う。子供時代の教育が将来のイノベーションを決めると考えられるので、初等教育者の育成の重要性を認識すべき。科学技術ではないが、芸術や教育はもうからないから切り捨てるとは、大変な話だ。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 97 大学の知やその知を持つ教員の役目は、優れた人材輩出のための教育、世界に先駆けた研究、そしてそれを社会を変えていくために使うための方策の提言にあるが、最後の部分が現状抜け落ちている。この部分を、大学だけでなく、企業、地域社会と共に考え、良いアイデアを出していくことが大学の本当の使命である。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 98 関係進化という言葉によって、研究側が経済側に従属する傾向が強まっていると思う。もっと研究側がリードする仕組みを目指すべきであろう。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 99 これから益々、社会技術といった枠組みでの取り組みが成果を上げていくと思われる。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 100 長期的な展望でイノベーションのテーマ策定や推進機能の強化を行うべきである。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 101 大学に対する様々な要望が出される中で、中長期の社会の有り様を見据えて大学など学術・教育界の見解表明と提案を促し、それを活かす姿勢が希薄である。また、司令塔が寄合になっていて権限と責任の所在が曖昧になっている感がある。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 102 教員の教育負担が大きく、科学技術イノベーションを体現できる研究時間や政策思考時間などの確保が困難となっている。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 103 5項に指摘しましたが、全体を見渡せる研究者が少ない。大学の研究者がその必要性を感じていないからです。海外の学会で積極的に発言する、複数の学会に参加する、市民との対話をする、フェアーなどで政府組織、自治体、企業との交流をするなど、具体的なガイドを提供すべきでしょう。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 104 科学技術の進展は早い、社会の問題解決に十分いかされていない。仕組みの強化が必要である。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 105 企業と大学の人事交流が一方通行(企業から大学に人は来るが、企業は大学人を雇用しない)である。これを双方向にすることが、大学発のイノベーションには一策となるかもしれない。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 106 SIPには期待していたが、やはり各省庁からの出費を取り戻すための仕組みが作られ、産業界は自前でできることなのでやや冷たい視線で見ているようだ。CSTI委員を増やしてもっと深く各課題に関わるようにすべきではないか。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 107 真のリーダーが必要(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 108 総合科学技術・イノベーション会議も、結局のところ、一部の大学を利する取組に終始している感じが強い。本当に日本の科学研究の将来を考える会議になっていないと思う。また、結局、欧米の後追い施策しか提言していないように思う。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 109 科学技術イノベーションの社会との関係深化は、研究成果のアウトリーチや科学技術リテラシー・コミュニケーションの問題と誤解されているのではないか？科学技術イノベーションと社会との関係を学術的に深く探求することがまずは必須であり、transdisciplinary scienceとして世界的に取り組まれているが、日本ではそれを担うべき人文社会科学の研究者としてのレベルが一部を除いて極めて低く、世界に大きく後れを取っている。社会との関係を深化させる科学技術イノベーションに関する国際的な拠点の構築が望まれる。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 110 米国では大学教員が大統領の科学技術アドバイザーとして活躍している。安倍首相には科学技術のアドバイザーがいない。総合科学技術会議がそれに相当するようであるが、文科省や経産省、厚生労働省、農水省など科学技術セクションを有する各省との連携が手薄のように見受けられる。医療行政と先端医療などのギャップが大きいので、先端医療が欧米に比して後塵を拝している。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 111 社会科学の知見を、自然科学研究の後追いやフォローアップとしか位置づけていない。非常に脆弱であると感じる。(大学、主任研究員・准教授クラス、女性)
- 112 世界で何が最も必要かとの認識が少なすぎる。大学がコストを標榜するような研究者が居る限り、この状況は変わらないであろう。(大学、その他、男性)
- 113 深まって来ていると感ずる。(大学、その他、女性)
- 114 場当たり的であり、長期的な展望に立った、国にとりやるべきこと、そして民間との協力のデザインなど、大きな方針が見えない(公的研究機関、社長・学長等クラス、男性)
- 115 グローバルな課題をリアルタイムで捉え議論してアイデアを提案できるようにアカデミアの国際化が必須と思われる。(公的研究機関、社長・学長等クラス、男性)
- 116 みている「社会」に大きな偏りがある(公的研究機関、社長・学長等クラス、男性)
- 117 いずれも形式的なもののばかりで成果を上げるための本格的な取組まで行かれていない。会議だけ開催されるケースが極めて多い。(公的研究機関、社長・学長等クラス、女性)
- 118 社会実装に関して、もともと社会科学(経済)系の研究者は、政策の評価・立案が主であり、技術の評価を研究課題の傍流と考えていたため、自然科学の研究者との連携が難しい状態にあると思われる。意識の改革が必要か。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)

- 119 科学技術の発展と現行法や社会通念とのギャップが生じることは常に懸念される事態である。特定の問題が発生してから対処するのは、教育の中に、「常にそのような問題は起きる可能性があり、そのため、社会リテラシーを研究者自身も身に付けておく必要がある」といった内容を入れ、多くの時間を討論等に割いて、議論ができる素地を培っておく必要があるだろうと思われる。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 120 大切なことだが、現場の自然科学研究者には、未だにこうしたことは研究に特段のプラスはないと考える人は多い。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 121 国が制度設計してどうなるものでもないというのが持論です。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 122 科学技術コミュニケーションの強化が必要である。そのためには、人文・社会科学と自然科学の連携が重要であるが、必ずしも連携の度合いが深まっているようには思えない。科学技術コミュニケーションの重要性は漠然と理解するものの、実際の科学技術政策への反映のモデルケースが想像しにくい。モデルケースをわかりやすく、ステークスホルダーに示すことが必要と思われる。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 123 人文社会の多様な価値観、そしてそれにまつわる膨大な取組を要する事項の優先度やさじ加減について、完成は無いにせよ、それらを繋ぐ制度設計、見える化の重要性は大きく、しかるに取組を深める価値はある。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 124 サイエンスとしての深化と社会との関係深化は同じ平面で議論できないのではないか。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 125 基本的な科学技術に対する国民の理解が決して高いとは言えないと思われる。巷にあふれる情報から自身がきちんと判断できる基礎的知識を広く獲得するための長期的視点に立った教育が必要ではないだろうか。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 126 真のイノベーションは自然に社会に広がると思います。むしろ、イノベーションを起こせる環境や人材を作るために何が必要か、どういう政策や教育が必要かなどを議論する必要があると思います。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 127 本来、効果を実感できるはずの身近な成果がうまく情報発信できていないのではないか。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 128 研究投資に対する寛容性(先進的な研究であれば成果が目に見えなくても良しとできる寛容性)の程度によって、研究の自由度が大きく変わる。社会への関係深化を強く求めると、研究の自由度は狭まるし根幹的な研究は育たない。研究機関の性格(その研究機関に求められる役割)によって、評価軸を変えるべきであると思う。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 129 科学技術は人類社会を幸福にすることに貢献するとともに、一方で大きな事故、社会的影響を及ぼす基になることもある。リスクのない技術開発成果は無く、社会との関係性を醸成することが重要と思う。技術の開発には専門的人材、技術の適用にはより一般的な生活者の関わりが重要になっていくと感じる。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 130 今の執行部である研究者PIの理解と、尊重が欠乏している。ある程度の割合で、PIの入れ替えが進む必要がある。新規のPIの採用のとき、バランスが必要。しかし、現状のPIが人事権をもっているとバランスを変えることはできない。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 131 政治も行政もシンクタンク機能が低下していないか。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 132 総合科学技術会議は、自らの研究資金で遊んでいないで、我が国の科学技術の将来を考えたり、各省のコーディネートや相乗効果を出すような作戦を練る機能に特化すべき。自分の金のマネジメントが主要な仕事である等はありません。強く反省しなければならないと思う。また、CSTIが産業界によりすぎている。研究をわかる常勤議員もおらず、科学技術全体を見られる体制になっていない。抜本的な改組等が必要な時期に来ている。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 133 社会との関係深化という面では欧米化の後を追う日本らしいイノベーションが起こせていないと感じる。どのように日本らしさを求めていくのかそこに対する推進が必要と感じる。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 134 各機関、各事業ががんばっているが、はたから見るとなんともいいがたい。しかし、あまりにも研究者に無理を強いるような状況も多く、「関係深化」の本来の意味を考え直すべきではないかと思うこともある。(公的研究機関、部長・教授等クラス、女性)
- 135 基礎研究(科学技術)と応用研究(社会)を橋渡しする人材の育成が急務ではないか。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 136 人文・社会科学及び自然科学の連携は、もっと深めていく必要があると思う。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 137 研究者と国民あるいはメディアの間をつなぐ役割を果たす人材がもっと必要だと思う。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 138 社会との関係深化につながる取り組みに対する評価基準等の整備が遅れており、また、研究活動・成果を至上とする雰囲気があるように感じます。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 139 (現在の)研究者に社会とのつながりに向けた業務を押しつけるのは能力的に困難である。社会とのつながりを深められる専門的人材を育成する必要がある。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 140 研究者と一般市民の知識やコンセンサスのレベルが違いすぎて、ステークホルダー同士での対話の場を設けても議論が空転することが多い。(このことは自身が食品を研究対象としているため、特に多く経験する。)自然科学や工学・農学の立場や考え方を、大学できちんと教えることを望む。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 141 サイエンスコミュニケーターの拡充を図るべき。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 142 無駄な基礎研究はイノベーションに役に立たないのか、それとも、実は多くのイノベーションをもたらしているのか、統計的に示すことが出来れば科学技術行政施策の策定に大いに役に立つだろう。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)

- 日本社会は科学研究の重要性に対して理解が足りない、使える技術の重要性は分かりやすい、すぐに製品の高性能化に結びつくから、しかし、その背景に基礎研究があることを理解していない、最近特に経済優先の社会構造が顕在化していると感じる。政治の影響が大きい、ノーベル賞のシーズンになるといくらか話題に上がる程度で、基礎研究、それを進める研究所、研究者の社会的認知度、重要性の認識は先進国で一番低いであろう。マスコミ、政治家がもっと賢くならないとこの辺は変わらないと思う。日本は初等教育が優れており、世界的に見てベースレベルは高い。しかし、高等教育、さらには大学等での学術研究にはそれほどの優位性は見られない。このギャップを正するのがこれからの日本社会、政治の責務である。これには情報発信しかないとされる。難しい研究のディティールではなく、どんな人が研究をやっているのか、少なからず国費が投入されている現場とは一体どんなものかを見せて行くことが必要と思う。そのために、マスコミには研究に対する格段の理解と、視聴率など市場主義に流されすぎない報道姿勢の構築をお願いしたい。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 10年、20年先、さらには50年先を見据えた科学政策のあり方について研究者の考えを取り組むことが重要だと考えるが、政策や社会とのつながりをすべての科学者に求めなくてもいいのではないかと考えている。変な言い方をすれば、科学者の変態性を担保し、社会や政策と距離をおいたような環境もあったほうが、逆説的に日本が目指している科学技術立国の姿により早く近づくのではないかと。科学の歴史をみると、あたらしい何かをブレイクスルーするような技術や知見は、そういうところからも多く生まれているから。(公的研究機関、研究員・助教クラス、男性)
- イノベーションとは本来市場に受け入れられることが前提であり、科学技術イノベーション政策というものの齟齬が現職に就いてから実感できるようになった。技術開発から社会実装に至るギャップを埋める機能はほとんど実装されていない。つくばチャレンジ、DRC (DARPA Robotics Challenge)、WRS (World Robot Summit)といった例をモデルケースとして、社会実装のための活動を拡充することが必要。(公的研究機関、研究員・助教クラス、男性)
- 日本の大学の研究水準がグローバルな基準との比較で低下しているとの報道がされています。社会へのインパクトの関係からも科学技術イノベーションの更なる機能強化策が必要と思われます。(公的研究機関、その他、男性)
- 社会との関係強化、推進機能は重要なテーマである。継続的な努力が必要と思う。(公的研究機関、その他、男性)
- 各ステークホルダーが、他への理解不足の感がある。相互理解が連携の鍵であろう。(公的研究機関、その他、男性)
- 科学技術、イノベーションと社会との関係は、その重要性について昔から指摘されてきているが、学問と政策担当行政を担当している関係者だけの言葉の遊び、政策提言だけに終わっている印象がある。日本社会、日本人の中に、科学技術の重要性、イノベーションの意味、こういった関係が単に特別な集会で議論されるだけでなく、産業界も一緒になって現実の現場から発言する機会を作るべきである。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 本件は、まさに総合科学技術・イノベーション会議のミッションであり、それに対しリーダーシップと資金含めて必要なリソース確保をさらに強化、加速していくべきだと思う。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 総合的には有識者であっても実施する分野的には素人となる有識者は多い。技術・知識的な面だけではなく、マネジメントや、実施するためのノウハウを持つ有識者を増やしたほうが良いと思う。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- この項の問いに関わる取り組みは表に出てきていない印象。まさに今後の課題なのだと思う。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 大学が全て同じである必要はない。大学院大学や大学院の充実を図る必要がある。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 高次元の計画策定が、政府にはない。ゴアみたいな人がいないで、トランプみたいな人ばかりだ。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 科学技術は必ず有用な部分と副作用の部分に伴う。社会の素人に近い人たちに対し、政府の一方的情報宣伝だけでなく、副作用的な面を指摘・検討するシステムがほとんどない。かつては科学朝日、自然などの、科学技術に対するインタープリターの月刊誌が存在した。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 科学技術とイノベーションをもっとニュースにして、大衆に知らしめて欲しい。こんなにITが発展しているのに、下世話なニュースしかないのは問題である。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- インテグリティ構築の意識を持って進めていただきたい。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 重要な課題について十分な議論と推進体制ができていないのではないだろうか。例えば人間なら誰でもできる単純作業ができるロボットの開発は高齢化社会の到来と労働力の減少が目前に迫ったわが国ではきわめて重要な技術課題だと考えるが組織的な開発が行なわれているとは思えない。ソフトウェアとしてはきわめて難度が高いがロボコンなどに向けられている若い人達の熱意と創造性を結集できれば世界に先立って実現することは可能と考える。安い労働力による工業製品生産の東南アジアへの集中の現状を変えることも可能ではないか。SIPやAICEが成功するかどうかは良く分からないがテーマの選定をガラス張りにし選定したテーマを各大学で分担して取り組みれば大きな成果が得られると思う。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 機械学会の「法と経済で読み解く技術のリスクと安全」の講座は、科学技術イノベーションと社会との関係を考察する良い機会だったと思う。技術と社会のかかわりについて、様々な事例を通して良否を判断するのではなく、理解を深める機会をもっと持ち、若い研究者が参加することが必要だと思う。大学では基礎を学び、社会については教員以外からも情報を得て、広い視野を持つ人が育つ必要がある。この機会は国内だけでなく、海外の事例を海外の研究者に発表してもらうのもよいと思う。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 各大学での取り組みに幅が出てきているように感じる。予算割り当ての問題かもしれない。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 総論賛成だけでは実行的な進展は望めない。個々のケースについて丁寧に対応する必要がある。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)

- 162 まだ余裕があるから真剣に取り組んでいない。このぬるま湯が煮え立つ危険があるという危機感がない。この数年が勝ち組、負け組に分けるターニングポイントになりそう。ODAとかの必要性も分からないでもないが、先ずは海外より国内、国内でも集中と選択。ちゃんとし得得意技、特技を改めて確立する必要があるのでは？資源を輸入していることを忘れてる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 163 省庁の縦割りを取り除くことが必要(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 164 特殊な人種や関係者でしか認知していない事が多く、広く一般に認識させる努力は必要。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 165 どんな国にするというのが見えないからイノベーションの価値評価もできないのではないかとにかくビジョンと実現のためのロードマップを作るべき。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 166 戦後の貧しい時代には、産学官いずれにも高い理想と相互への敬意と連携意欲があったが、高度成長を経てすっかり分断され、産学官が別人種の如く、お互いの価値観や行動原理を理解できず、海外との連携もますます不全状態。産学官のそれぞれが自己の価値観の延長で思い込みで連携に取り組んでいる。特に、基礎の科学技術研究を支える国家予算を握る官僚が、2年足らずで役職を移るという慣習で、専門性に乏しく、短期で予算獲得のような手柄を立てようとの軽薄な行動で、日本を劣化させている。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 167 国の機関がもっと多様な意見を参考に施策をしないとだめだと思います。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 168 もっと啓蒙活動が必要。一般の人は、まったく意識さえしていないと思う。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 169 イノベーションの社会実装には、もっと自然科学部門と社会科学部門の協働の場が必須と思う。特に先端技術は、その倫理的な面も含めて、幅広い議論がなされないと、多くの社会的課題(営業秘密, 個人情報, 医療倫理, 環境問題, 独占禁止法, 会計・税制等)を引き起こす可能性がある。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 170 1. 総合科学技術・イノベーション会議のような出来上がったもののみならず、もっと多様な意見を取り入れる仕組みを工夫してはどうか(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 171 日本の未来50年後, 100年後の社会を考えて、今何が必要なのかを考える仕組みが必要と感じます。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 女性)
- 172 本来、科学技術そのものも、社会の中で、市民の内側からニーズや課題が発見され、その解決のために大学・企業・行政が、一体となって解決策を研究すべきであると思う。だが、日本の中では、それぞれがたこつぼ化し、ニーズや技術の共有や相互利用を進めるインフラ自体がない。知的財産の処理も諸外国から見れば遅れている。若い研究者は委縮し、新たなブレイクスルーが出てこない。社会を見て、そこへ成果を返していくという姿勢になりえないのではないかと。大変もったいないことである。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 女性)
- 173 科学技術イノベーションが経済活動を伴ったものであれば、自ずと、社会との関係は深いものになると考えられます。今後、どのような科学技術分野に予算をかけていくのかの方針と、その方針を研究者や社会に明確に伝えていくことが重要だと思います。CSTIの役割は、ますます重要になっていくかと。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 174 見えない。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 175 科学技術基本計画が策定されて20年以上がたつが、国内発のイノベーションがどれだけあったか。むしろ、世界の潮流から取り残されて「ガラパゴス化」が進んだのではないかと。イノベーションは、単に新たな科学技術上の発見や発明では生じない。従来の政策や制度の変更を伴って初めて、大きなイノベーションとなる。CSTIが本気で取り組むつもりならば、自らの役割を狭く限定することなく、省庁横断的に従来の科学技術推進政策を批判的に総括し、世界の潮流とのずれをも可視化することが必須だ。それができないから、低迷が続いていると考える。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 176 新に必要と思われる人材とシステムが圧倒的に足りていない。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 177 科学技術開発を中心にイノベーションを捉えると労多く益少ない状況が懸念される。日本の税金を使って開発した科学技術が海外企業の実業に役立っている状況は改善すべき。多方面から技術を結集して組み上げる力が日本には不足している。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 178 SIP成果の社会実装(実験)が話題となっているが、研究実施側からの一方的な流れでなくユーザー(社会・民間)側との十分な意見交換が必要である。単に枠組み組織を作るだけでなく十分な運用が望まれる。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 179 総合科学技術・イノベーション会議はもっとライフサイエンス・医療等に関与すべきである。現行のAMED運用についてもっと干渉すべきであろう。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 180 研究者側の取り組みが十分とは言えないが、取り組みを可能とするためには研究者を雑務から解き放つ必要がある。また、研究者自身が生き残りに汲々としている状況では、社会貢献活動などに力を割くことも難しいだろう。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 181 政府がメディアに対して、取組を公開するような番組を持って頂きたい。本来は〇〇〇【非営利団体名】がその任務があるはずだが、〇〇〇が受信料を税金のように徴収するだけで、本当に日本の国民のためのニュースをやっているかがはなはだ疑問。余談であるが、公的な報道である〇〇〇が、中国や韓国よりの報道があったり、聖徳太子は実在しなかったかという〇〇〇〇〇〇〇〇【公的研究機関名】の在り方は問題。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 182 取り組み自体は行われていることを認識していますが、民間企業の立場からはまだ十分に効果が出ているとは認識できておりません。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)

- 海外の視点でみるとわかる。日本のボトムアップ型による新規技術の創成は、稟議と関係者に理解してもらうための準備・成果物作成に膨大な作業時間を要し、完成までの道のりが遠い。それまでの予算の配分も小さいため、小分けした作業を強いられ、それでも苦労して遂行するものの「出来上がったら持ってこい、しかし安くつくれ」的な思考停止型審議構造が価値の創出を阻んでいる。また時折、担当者の環境が組織により変わるため（移動や転勤）、継続性がなく途中で終わる例も多い。イノベーションは、時として一気呵成に行うことが肝要であるため、見立てを立てる段階で以下を視野に入れる必要がある。1. トップダウンで推進するだけではなく、数社協業で行うためネットワーク化が得意な人材を擁すること、2. 技術の到達と市場導入には複合化が必須のため、M&A、あるいは積極的な技術提携を進めていくこと、そのための優秀で信頼できるアドバイザーと資金面（VC）での共有を早期に図ること、3. 知財戦略は必ず並行して行うこと、など、R&Dを事業化させる実務に携わっていると特に実感する。（民間企業等、部長・教授等クラス、男性）
- 183
- 今後、社会制度や生活環境、既存規制にそぐわない制度改革を行わないと、成功例として世界発信できない。自由度の部分と違法をもっと的確に、科学技術を進める為に、制度改革ではなく、科学技術が進んだから、この制度は、不要となるような考えで進められると難しく考えなくても良いのでは。（民間企業等、部長・教授等クラス、男性）
- 184
- 企業はある程度社会の動きを見て活動していると思う。特に研究者は社会とのかかわりを積極的にもち、自分の技術は何の役に立つのか？と考えることが必要だと思う。（民間企業等、部長・教授等クラス、男性）
- 185
- 北朝鮮や中国からの具体的危機が高まる中で、なぜ日本学術会議は研究成果の軍事転用を拒否するのが理解できません。軍事の裏付けのない外交はあり得ず、米国では日本の自国中心の勝手な平和主義により、東アジアの不安定化要因を招いているとの意見も大きくなりつつあります。大きな課題ではありますが、政府にはリーダーシップを発揮してこの問題に取り組んでもらいたいと思います。（民間企業等、部長・教授等クラス、男性）
- 186
- 別項にも記したが、科学技術に関する情報発信は旧来のマスコミでは明らかに知識・能力不足。科学ジャーナリズムのレベルアップが必要と感じるが、具体案は無い。（民間企業等、部長・教授等クラス、男性）
- 187
- 政府に対する科学的助言は実施されているが、有効活用されているのか、また十分なレベルであるかを正しく評価する仕組み整備が必要である。絶対値評価は困難な場合、他国との相対的比較等取り入れるなど工夫したいものである。（民間企業等、部長・教授等クラス、女性）
- 188
- 科学技術イノベーションにおいて、例えば自動運転のような一般に分かり易いものでは認知度も高く、社会との関係は比較的深化していると言える。しかしながら、社会基盤を支える基幹産業分野等では、社会との関係深化は充分とは言えず、特に当該分野における研究者そのものの減少は大きな課題となる。国の公募研究などを通して、基礎・基盤研究にも焦点を当て、学連携や研究予算を配分する施策も必要である。（民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性）
- 189
- イノベーションを起こすための科学技術を予測することに、時間と資金を費やすことには意味がないように思います。多くのイノベーション技術がそうであったことは歴史で知るので、当時その技術に携わっているヒトはただ必死に研究に没頭しているのみで知りえない。このことは、ロンドンのサイエンスミュージアムの展示物が実物で示してくれている。モノづくり・技術開発・研究開発を必死になってやるヒトを世間が評価・支援して育てることが近道のように感じます。（民間企業等、社長・学長等クラス、男性）
- 190
- まだまだコミュニケーションが不足していると思います。イノベーションに対する社会の期待が強いのは良くわかりますし、研究者や技術者が真剣に努力しているのもよくわかりますが、歯車がかみ合っていないような気がします。解決する妙案となるとなかなか出てきません。時間も要することですので、関係者がこれからも常に努力を続ける必要があることは間違いないと思います。（民間企業等、社長・学長等クラス、男性）
- 191
- ある国プロジェクトの評価委員が、医学的な研究分野であるにも関わらず富裕層向けの医療サービスの推進を強く提案されており、正義の観点から疑問を抱きました。学者が営利活動について言及するとあまり良いことにならないときもあるように思います。（民間企業等、社長・学長等クラス、男性）
- 192